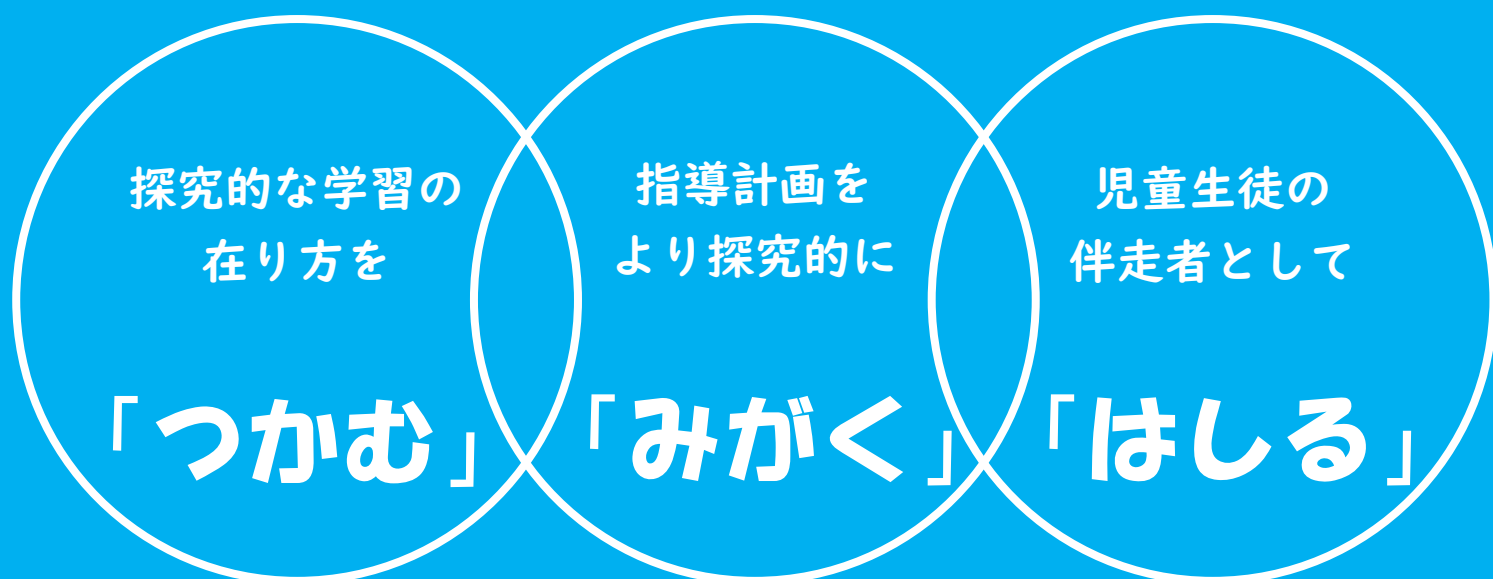
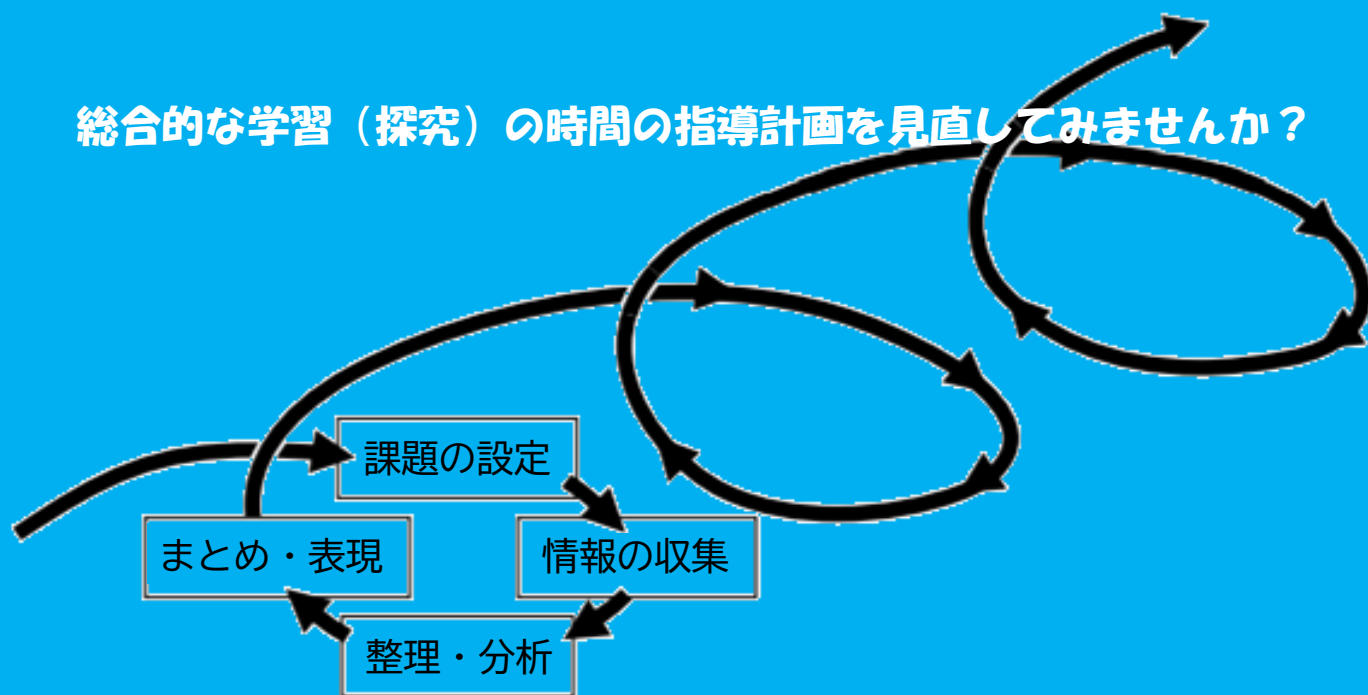


探究的な学習

教師の3つのアクション



総合的な学習（探究）の時間の指導計画を見直してみませんか？



令和4年度長期研修専門研究 探究的な学習研究グループ

探究的な学習の在り方を「つかむ」

1. 探究的な学習の指導のポイント

ページ

- (1) 学習過程を探究的にすること・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること・・・・・・ 2

2. 総合的な学習（探究）の時間の充実のために

- (1) 総合的な学習（探究）の時間から見直してみませんか？・・・・・・ 3

指導計画をより探究的に「みがく」・児童生徒の伴走者として「はしる」

3. 単元計画の作成・見直しに当たって

- (1) このようにしてみませんか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 単元計画作成の解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

指導計画例

▶小学校	3 学年	「福祉」	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
▶小学校	4 学年	「環境」	・・・・・・・・・・・・・・・・	22
▶中学校	1 学年	「まちづくり」	・・・・・・・・・・・・・・・・	29
▶高等学校	2 学年	「生徒の興味・関心に基づく課題」	・・・・・・・・・・・・・・・・	48
▶教室用掲示物（探究の過程）			・・・・・・・・・・・・・・・・	52

県内の学校の実践紹介

	つかむ	みがく	はしる	
▶A 小学校		○	○	・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
▶B 小学校	○	○		・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
▶C 中学校	○		○	・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
▶D 中学校		○	○	・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
▶E 高等学校		○	○	・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
▶F 高等学校		○	○	・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

1. 探究的な学習の指導のポイント（学習指導要領より抜粋・整理）

(1) 学習過程を探究的にすること

「課題の設定」

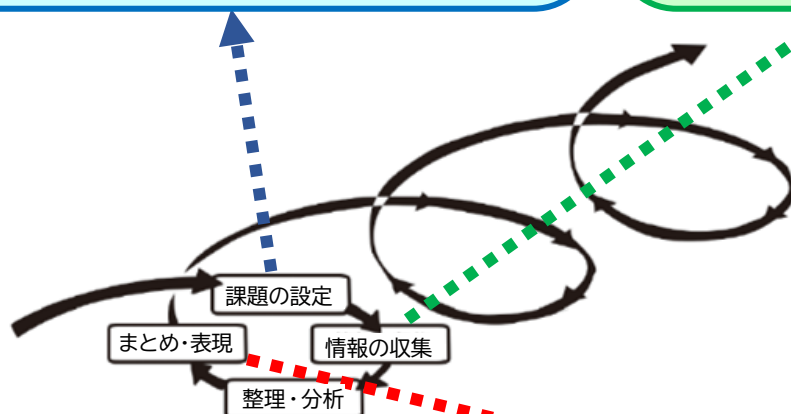
⇒ 体験活動などを通して、課題を設定し
課題意識を持たせる

- ・ 児童生徒が自ら課題を持つ≠教師は何もしないでじっと待つ
- ・ 教師が意図的な働き掛けをする
- ・ 学習対象との関わり方や出会わせ方を工夫する
- ・ 体験活動で対象に直接触れることで、興味や疑問を持たせる

「情報の収集」

⇒ 必要な情報を取り出したり
収集したりさせる

- ・ 体験活動を通して、課題解決に必要な情報を収集させる
- ・ 体験活動の目的を明確にしながら自覚的に取り組ませる
- ・ 情報の種類（数値、言語、感覚）を意識した学習活動にさせる
- ・ 感覚的な情報は言語化するなど適切に蓄積させ、必要に応じて共有させる



このプロセスが連続的、発展的に繰り返されていくんだ！



「整理・分析」

⇒ 収集した情報を、整理したり
分析したりして思考させる

- ・ 入手先や、公式か個人的かなど情報の性格を踏まえて整理させる
- ・ 「考えるための技法」（比較、分類、序列化、類推、関連付け、原因や結果に着目など）を意識させる
- ・ 思考ツールで思考を可視化させ、整理・分析の質を高めるようにさせる

「まとめ・表現」

⇒ 気づきや発見、自分の考えなどを
まとめ、判断し、表現させる

- ・ 伝えるための具体的な方法を身に付けさせ、目的に応じて使うようにさせる
- ・ 相手意識や目的意識を明確にさせる
- ・ 情報を再構築させ、自分の考えや新たな課題を自覚させる

中学生 Aさんの活動例

テーマ：よりよい〇〇町にしよう！



	第1次 〇〇町をよりよくするために、地域の産業や取組を調べよう！	第2次 〇〇町をよりよくするために、自分たちにできることを提案しよう！	第3次 〇〇町をよ を実践しよ
課題の設定	町役場の人から町の観光に興味を持ちました	町の観光業を元気にするための課題を設定しました	
情報の収集	町役場の人に観光についてもう一度詳しい話を聞きに行きます	旅館経営者や観光客を対象にインタビューやアンケート調査をしました	
整理・分析	調査結果から町の観光業が抱える課題や背景について考えました	調査結果を基に自分たちにできることは何かを考えました	
まとめ・表現	まとめていく中で観光業をもっと元気にしたいという思いが湧いてきました	役場の人や旅館経営者などに自分たちの提案を伝え、意見を聞きました	

(2)他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

「多様な情報を活用して 協働的に学ぶ」

⇒協働的な学習を有効に機能させ、
多様な情報を適切に活用させる

- ・情報交換や教師からの問い掛けを通して考えたり話し合ったりさせる
- ・情報を改めて見詰め直し、互いの発見の共通点や相違点に気付いたり、関連性を見付けたりさせる

「力を合わせたり 交流したりして 協働的に学ぶ」

⇒相手意識や仲間意識を育む

- ・一人でできないことも集団で実現できることは多いことを実感させる
- ・地域の大人などとの交流を通して、児童生徒の社会参画の意識を目覚めさせる
- ・力を合わせて取り組むことの大切さや地域社会に関わる喜びなどを実感させる

「異なる視点から考え 協働的に学ぶ」

⇒異なる視点を出し合い、検討させる

- ・収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして考えさせる
- ・調べた上で話し合い、異なる視点での意見を引き出す

「主体的かつ協働的に学ぶ」

⇒問題を自分のこととして受け止め、
よりよく解決させようとする

- ・協働的に学ぶ＝それぞれの個性を生かす
- ・それぞれの児童生徒なりに主体的に学ぶこと、協働的に学ぶことの良さを実感できるようにさせる
- ・協働性と主体性の両方をバランス良く意識させる

協働的に取り組むことが、児童生徒の学習の質を高め、探究的な学習を実現することにつながるんだ！



探究的な学習 教師の3つのアクションを取り入れた校内研修会の例

「つかむ」「みがく」を主なねらいとした場合

- 1 「探究的な学習の指導のポイント」について情報共有
- 2 ワークショップ
「探究的な学習の指導のポイント」を踏まえて単元構想
※過程(課題の設定、情報の収集など)ごとに分けて実施
してもよい
- 3 構想の共有

「つかむ」「はしる」を主なねらいとした場合

- 1 「探究的な学習の指導のポイント」について情報共有
- 2 ワークショップ
児童生徒が実際に収集した情報を基に、どのような整理・分析が展開されていくかを想定し、指導の方向性や効果的な思考ツールなどについて意見交換
- 3 意見の共有

2. 探究的な学習の充実のために

(1)総合的な学習(探究)の時間から見直してみませんか？

年間指導計画

行事に置き換えられている
進路指導になっている
前年度のままになっている



カリキュラム・マネジメントを軸として！

児童生徒の学習経験に配慮する

- ・児童生徒のこれまでの経験や成果を生かす
- ・経験が不足している場合には、それに応じた活動となるようにする

適切な活動時期に実施する

- ・1年間の季節や行事の流れを生かす
- ・時期と内容の両面から検討する

各教科等との関連を明らかにする

- ・各教科等で身に付けた資質・能力を把握し、総合的な学習(探究)の時間で活用させる
- ・総合的な学習(探究)の時間での活動が各教科等における学習の素材となることも考えられる

外部・異校種連携を意識する

- ・支援してくれる団体や個人に、連携・協力を求められる関係づくりをしておく
- ・異校種連携では児童生徒が必要感を持ち、互恵的な関係になるようにする

単元計画

教師主導の場面が多い
計画をこなすだけになっている
学習に深まりが見られない



より探究的に！

児童生徒の関心や疑問を生かす

- ・児童生徒の関心や疑問を見取り、把握する
- ・教師の働き掛けなどにより芽生えた新たな関心や疑問をよりどころにすることも考えられる

意図した学習を効果的に生み出す

- ・活動の向かう方向を予測し、教師はどのような働き掛けをするのか検討する
- ・幅広く、拡散的に思考を巡らせながら、教材研究を行う

学習過程を探究的にする

他者と協働して主体的に取り組ませる

1, 2ページをご覧ください

※単元が年間を通して1つの場合は、年間指導計画と単元計画が1つにまとまる場合もあります。

総合的な学習(探究)の時間の見直しをきっかけとして、
他教科等でも探究的な学習に取り組んでいきたいね！



3. 単元計画の作成・見直しに当たって (1) このようにしていませんか？

課題の設定

？

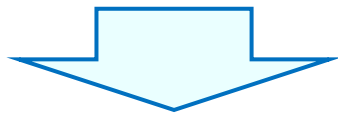


どうすれば児童生徒が
課題を設定できるの？

課題を「自分のこと」
とさせるには？

～こうなっていないませんか？～

- 課題設定までの時間が十分でない。
- 教師が一方向的に課題を与えている。
- 子供たちの興味・関心が高まっていない。



「いかに課題意識を持たせるか」

児童生徒が探究的な学習を主体的に進めていくためには、その学習を持続させる「原動力」が必要です。そのためにも、設定した課題が児童生徒にとって「自分のこと」となり、解決したいという思いを強く持たせることが重要です。「調べたい！」「考えたい！」というわくわく感を持たせるためにも、教師の働き掛けや教材との出会わせ方が大切です。

○教材との出会わせ方を工夫

「初めて知った！」「えっ！そうだったの？」「どうして？」などを引き出すように工夫し、児童生徒の興味・関心を高め、必要感を持たせるようにする。

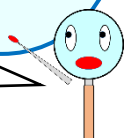
○体験活動を充実

地域の大人との交流、ボランティア活動や祭りへの参加といった社会活動など、対象に直接触れることで、新たな気付きや疑問を引き出すようにする。そのための時間を十分確保する。

○教師の問い掛け・具体の提案

「どこを特に調べたいか」「調べてどうしたいか」などと問い、児童生徒の疑問や課題の焦点化を図るようにする。

このようにしていませんか？



情報の収集

?

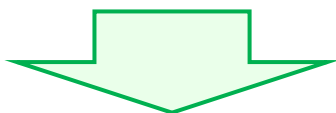


児童生徒に意識的に
情報収集させるには？

収集した情報はどの
ように蓄積すれば？

～こうなっていないませんか？～

- インターネットでの情報収集のみになっている。
- 体験的な情報収集を設定していない。
- 集めた情報が後の活動に生かされていない。



「多様な情報収集と適切な蓄積」

インターネットによる情報の検索は、児童生徒にとって身近で取り組みやすい情報収集の手段です。しかし、そればかりが情報源とならないように、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などの体験活動を学習活動に取り入れ、様々な情報源から、自覚的または無自覚的に情報収集することが大切です。さらに、収集した情報を「整理・分析」の過程で活用できるように、場所や情報源などに分類しながら蓄積させることが重要です。

○体験活動を充実

相手の思いやその場の様子や匂いなど、対象に直接触れたからこそ得られる情報を大切にし、児童生徒の興味・関心を高めるようにする。

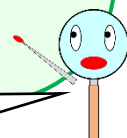
○収集する情報の種類（数値、言語、感覚）に応じた学習活動を設定

特に「感覚的な情報」は貴重なため、感覚が薄れないうちにレポートや振り返りを書かせるなど、言語化させる。

○その後の学習活動を視野に入れた蓄積と共有

紙ファイルやクラウドを利用し、初めは時系列に蓄積し、その後内容ごとにまとめさせる。また、必要に応じて集めた情報を教室や廊下に置いておき、いつでも誰でも見られるようにしておく。

このようにしてみませんか？



整理・分析

?



「整理・分析」って
具体的に何をするの？

整理・分析の指導っ
てどうするの？

～こうなっていないませんか？～

- 収集した情報の分析が十分でない。
- 情報共有はするものの、発表して終わりに
なっている。



「情報を基にした活発な思考」

単純な調べ学習にならないようにするためには、整理・分析の充実が欠かせません。そのためには、収集した情報を比較したり分類したりして情報を整理し、そこから関係性や因果関係などを考えていくことが大切です。整理・分析を充実させることが、収集した情報や得た知識を概念的に理解することにつながり、他教科等や実生活・実社会で生きる資質・能力の育成につながります。

○獲得した情報の吟味

当事者から直接得た情報かインターネット上の情報かといった情報の入手先や、客観的なデータか個人的な意見かといった情報の性格などを踏まえて整理させる。

○「考えるための技法」の活用

収集した情報を、個人またはグループで、比較、分類、序列化、類推、関連付け、原因や結果に着目するなど、様々な技法で分析させる。

○「思考ツール」の活用

KJ法、ベン図など様々な思考ツールや ICT を活用し、思考を可視化させた上で、分析したり話し合わせたりする。

このようにしてみませんか？



まとめ・表現

?

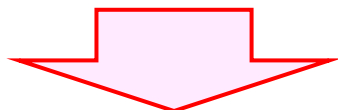


発表すれば終わり？

新たな疑問や課題を
自覚させるには？

～こうなっていないませんか？～

- 調べたことを読むだけの発表になっている。
- 発表が終わると活動が終わり，活動が連続的・発展的になっていない。



「考えを発展させ， 新たな課題を持つ」

新聞や模造紙などに調べたことや考えたことをまとめて，発表することが目的ではありません。それらを通して，児童生徒一人一人の考えや課題がより一層鮮明になったり，新たな課題を持たせたりすることが大切です。そうすることで，学習が質的に高まり，表面的ではない深まりのある探究的な学習となります。

○相手意識や目的意識

何を目的とした活動だったのか，単元の課題や各自が設定した課題を確認し，内容や主張を明確にさせる。必要に応じて内容を再構成させる。

○考えや新たな課題の自覚

振り返りの視点を示したり，発表を聞いた人に講評をもらう場面を設定したりすることで，自らの学びを自覚させたり新たな課題に気付いたりさせる。

○伝えるための方法を身に付ける

新聞やポスターにまとめる，ICTを活用する，ものづくりや伝統芸能の伝承活動など，具体的な方法を身に付け，目的に応じて選択できるようにさせる。

このようにしていませんか？



(2) 単元計画作成の解説 小学校

○単元名「目の不自由な人がくらしやすい東大崎にしよう」(全 25時間)

みがく

社会的に注目された行事や国語の教科書に載っている教材を使って学習対象に出会わせる。

インターネットで情報を収集するだけでなく、インタビューや実施調査などの体験活動の機会を想定する。

段階	時数	主な学習活動 ※指導上の留意点
課題の設定	6	○東京パラリンピックの写真や動画を見たり、3年国語下「パラリンピックが目指すもの」を読んだりして、気付いたことを話し合う。 ※視覚障害者が競技を行えるようにするための工夫やパラリンピックの価値について知ることで、視覚障害への関心を高める。 ○視覚障害者の生活を想像したり、目隠しをして教室や廊下を歩いたりする体験を通して、視覚障害者の生活について考える。 ○知りたいことや疑問に思うことを調べる方法について話し合う。 ※実感を伴う理解をするにはどのような方法が良いかという視点で考えさせる。 ○疑似体験を通して、不便さを実感する。 ○個人で仮の課題を設定する。 ※課題を設定するときの視点について知らせることで、探究する価値のある問いを設定させるようにする。 ○仮の課題を再検討し、グループで話し合いながら本課題を設定する。 ※クラゲチャートを使うことで、各自の思考を可視化しながら話し合いを進めさせる。
情報の収集	6	○グループごとに情報収集の計画を立てる。 ※インタビューや実地調査など多様な情報収集の手段があることを知らせることで、手段がインターネットに偏らないようにさせる。 ○グループごとに情報収集を行う。 ・疑似体験の追調査 ・学校周辺の実地調査 ・社会福祉協議会の方や視覚障害者へのインタビュー ・インターネットや図書資料を使っでの調査 など ※活動場所が教室と校外など、担任一人では対応が難しい場合は、他の教員に協力をもらう。

協

…協働的な学びを充実させるための学習活動

はしる

体験活動に取り組む必要感を引き出すために、言葉掛けを工夫する。

協

話し合いをする中で、自分の考えの焦点化を図り、課題を明確にする。

児童の活動にできる限り寄り添うようにするため、他の教員の協力をもらうことも想定し、依頼する。

協

一人では十分な情報を集められなかったとしても、グループで協力することで、様々な情報を集められることを実感させる。

今後の見通しを持たせるようにすることで意欲を継続させたり、活動に連続性を持たせたりする。

まとめ・表現することを通して、学習を深めていけるような言葉掛けをする。

整理・分析	6	○グループ内で各自が集めた情報の共有を図りながら、情報の入手先ごとに整理する。 ○整理・分析の方法を考え、集めた情報から分かることは何か、視覚障害者がくらしやすい東大崎にするにはどうすれば良いかなど、自分たちの考えを検討する。 ※KJ法やピラミッドチャートなどの思考ツールを使いながら、各自が集めた情報を整理させたり話し合いをさせたりすることで、考えを整理させたり思考ツールを使うことに慣れさせたりする。 ○自分たちの考えを伝えるためには、どの情報を選択すれば良いかを考え、話し合う。 ※伝える相手は誰か、特に何を伝えたいかなど、相手意識や目的意識を持たせるようにすることで、次のまとめ・表現につなげる。
	6	○福祉協議会の方に自分たちの考えを聞いてもらうという相手意識や目的意識を明確にし、まとめ・表現の計画を立てる。 ※今回は、Keynote を使ってまとめることとし、簡単なプレゼンテーション資料作成の仕方について全体で学ぶ機会とする。 ○視覚障害者がくらしやすい東大崎のために、自分たちが伝えたいことを Keynote でまとめる。 ※話し合いをしたり、文章に表現したりする中で、自分の考えをより明らかにしたり、新たな課題を見付けたりできるようにさせる。 ※説得力のある発表とするために、根拠となる資料と方法を選択させる。 ○福祉協議会の方に向けて発表する。 ※福祉協議会の方から講評をいただくことで、他者評価を受ける機会とする。
	1	○単元を振り返り、視覚障害者との関わり方について考えたことを振り返りシートにまとめ、意見交換をする。 ※目が不自由な人に対する考え方が、学習の前と後でどう変わったか。学習を通して、新たに気付いたことや分かったことは何か。学習した結果新たに見えてきた課題は何か。などの視点を示した上で考えを記入させる。 ※意見交流や話し合いを通して、障害があることは「不便ではあるが不幸ではない」ということに気付かせるようにする。

思考を可視化するために思考ツールを活用させる。

伝えるための具体的な方法を身に付ける機会を設定し、今後の活動でも生かせるようにさせる。

協

社会福祉協議会の方からの励ましをもらうことで、社会に関わる喜びを実感させる。

小学校

○単元名「エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～」(全35時間)

みがく

はしる

段階	時数	○主な学習活動 ※指導上の留意点
課題の設定	12	○海に親しむ集いで行った海岸清掃について振り返る。その際、活動時の写真を見せることで、想起させやすくする。 ※「どのようなごみがあったのかな？」と問うことで、児童に活動で持ち帰ったごみを詳しく見てみたいという思いを持てるようにさせる。
		○海岸清掃で拾ったごみを確認する。
		○分別したごみの重さを量ったり、分類したごみ毎に写真をとったりして感じたことをワークシートに整理する。
		○今後の学習の見通しを立てる。
		※ごみ調査に至るまでの児童の思いが大切となるので、児童に揺さぶりを掛けながら、活動に行かないと学習が深まらないという切実感を引き出す。
		外部講師による講話①
		○学校行事でお世話になった外部講師の講話を聞く。 ※普段から海に関わる仕事をしていて、その中で感じる「海洋ごみ」についての現状や思いを伝えてもらう。 ※学校行事で児童が見えてこなかったと推察される内容(ごみの種類やごみの分別方法など)について話していただくことで、単元の主活動への児童の意欲付けを図る。
		○単元の主活動「大谷海岸のごみ調査」を行う。 ※自分たちの手で、今度はどれくらいごみが集まるのかしっかり調べたいという意欲を持たせる。
		○ごみ調査を行って感じたことを整理する。
		※体験活動後の振り返りをワークシートにまとめさせる。
		外部講師による講話②
		○外部講師にごみ調査の結果を伝える。 ※児童が調査で気付かなかった点や関心の薄い事柄について講話していただく。
		○海洋ごみの現状について知る。

児童が主活動を希望し、詳しい調査方法を外部講師に聞きたいと思うようになることを想定した上で計画を立てる。

「これからどうするの？」などと児童をゆさぶりながら、主活動への切実感を引き出す。その際は、児童の反応を待ち、上がってきた声を大切にしながら学習の方向性を決定する。

ワークシートの記述から活動での児童の気付きを見取り、指導に生かす。

協			※世界各地に広がる海洋ごみの現状を、映像資料を通して見せることで、大谷の海で起っていることが世界でも起っていることに気付かせる。 ※児童にこれまでの学習の中から一番興味・関心のある事柄を選び、探究課題を設定させる。
	情報 の 収 集	7	○個人で課題を設定した後に、似ている考えごとにグルーピングする。 ○課題を調べるための方法について具体的に考える。 ※「みんなの疑問を解決するためにどのようなことが必要ですか？」と問うことで、情報収集の方法について考えさせる。 ・インターネットや本を使って調べる。 ・漁師さんにインタビュー(電話なども可)する。 ※児童が目指す学習のゴールについて確認する。(まとめ方、発表対象等) ○グループ毎に必要な情報を集める。 ※調べる方法がインターネットに偏らないように、外部講師からいただいた資料や図書室の書籍、インタビューなど様々な手段で情報収集を行うことでより良い成果につながることを伝える。
	整 理 ・ 分 析	5	○グループごとに、調べたことをまとめる上で必要な情報を整理する。 ※KJ法等の思考ツールを使って、どの情報が一番必要か、足りない情報はなにか等についてグループで話し合わせる。 ※必要に応じて再調査を行ってもよいことを伝える。
	ま と め ・ 表 現	11	○テーマを基に調べたことを、構成を考えながらポスターにまとめる。 ※資料や写真の効果を考えながらまとめさせる。 ※発表原稿も作成し、ポスターを活用して発表できるようにさせる。 ※発表原稿が二次的情報をそのまま読むだけのようなものにならないように留意させる。(自分たちの言葉になっているか) ○ポスターや発表原稿の推敲を行う。 ○大谷の海の環境を守るための取組について発表会をしよう。 ※可能であれば講師の方々を招待する。 ※グループに分かれてポスター発表会を行い、感想を伝え合う。 ※道の駅に児童の成果物を掲示する。 ○発表会を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見付けたりする。 ※振り返りの観点を示し、調べて分かったことやこれから更に取り組んでいきたいことについてまとめる。

情報収集では、専門家等へのインタビューすることが、課題解決の手掛かりとなることを伝える。

整理・分析では、自分とは異なる視点から意見交換を行うことで、話し合いの質を高めさせる。

児童が関わった外部人材や地域の大人と関わる機会を設定することで、児童に社会参画の意識を持たせる。

学習の方向性を児童に問い、単元のゴールイメージを全体で共有することで、今後の活動に目的意識を持って臨めるようにする。

中学校

○単元名「地元で学び、地元を知ろう」(全20時間)

みがく

はしる

地域の専門家や役場職員
の話を直接聞かせる機会
を設定し、題材に対する興
味・関心を高めさせたり、
疑問を持たせたりする。

町について気になること
や調べてみたいことを生
徒目線で発見させる。レ
ポートを基に、生徒の興
味・関心を把握し、「課題
の設定」の指導に生かす。

協

個人の問いの共通点や関連
性について話し合わせ、グ
ループとしての探究課題を
設定させる。

段階	時数	主な学習活動 ※指導上の留意点
課題の設定	夏休み	○町について気になっていることや調べてみたいことを見付け、レポートを書き、○○町に対する興味・関心を高める。 ※回収したレポートで、生徒の興味・関心を把握する。
	7	○夏休みの課題で出た個人の意見を基に、テキストマイニングやウェビングを行い、学級全体で情報を共有する。 ※小学校での地域学習を振り返らせ、まだ発見していない町の魅力があることに気付かせる。 ※町に対する興味・関心を高めさせ、町をよく知る人から話を聞いてみたいという思いを持たせ、次時の講演会へとつなげる。 ○町の歴史やまちづくりについての講演会に参加し、地域の専門家や役場職員から話を聞く。 ※「過去のまちづくり」と「現在のまちづくり」について知り、より良い町にするために、中学生としてできることに取り組もうという思いを持たせ、課題の設定へとつなげる。 ○夏休みの課題や講演会を通して生まれた興味・関心や疑問を基に、どんなことを探究したいかについて、自分の考えや思いをまとめる。 ※生徒の記述を基に、教員側で探究グループ編成(案)を作成する。 ○探究していきたいと思う内容が近いメンバー同士で、探究グループを作る。個人で取り組みたい場合は、個人探究でも良い。 ※探究グループ編成(案)を生徒に示し、最終調整を行う。 ※編成終了後からは、担任・副担任でグループを分担し、まとめ・発表まで指導・助言する。 ○夏休みの課題や講演会を通して生まれた興味・関心や疑問を整理し、個人の問いを作る。 ○個人の問い基に、グループで意見を出し合い、グループとしての探究課題を設定する。 ※自分たちが本当に取り組んでいきたいと強く思える探究課題となるように、生徒の話合いを見守り、適宜支援する。

インターネットだけの情報収集だけにならないようにさせるために、インタビューや追調査の手段を設定する。

収集した情報を使って、町の魅力やより良い町にするための改善策について考えさせるために、出典を確認させ、情報を吟味させる時間を確保する。

相手意識や目的意識を明確にした上でまとめ・表現させるようにする。また、自分たちの提案がより伝わりやすい発表の手段も選択させるようにする。

情報の収集	4	○学習の見通しを持つために、課題解決に向けた調査計画を立てる。 ○書籍、資料、インターネットから情報を収集する。 ※インターネットで調べきれなかったことについてインタビューするために、質問項目をグループでまとめさせる。 ※事前に地域コーディネーターやボランティアなどの人材をリストアップしておく。(協働教育担当が持っているリストを活用する) ※連絡調整が必要な場合は、学年主任が窓口となる。 ○地域の専門家や役場の職員等にインタビューを行い、必要な情報や資料を収集する。 ※直接インタビューに行くことができない場合は、電話、メール、ファックス、オンライン等を活用し、実施する。 ※複数グループのインタビュー先が同一の人物や団体である場合は、質問項目の精選を行う。回答までの時間を見越し次時を設定する。 ※他グループの学習の途中経過を参考にさせる。 ※収集した情報は、紙ファイルや、タブレット端末に蓄積させる。
整理・分析	2	○収集した情報から、○○町をより良い町にするための提案として必要な情報を吟味する。 ※一次情報、二次情報、三次情報の違いに触れ、信頼できる情報であることを確認させる。 ※まとめ・表現での発信の方法も視野に入れ、内容を吟味させる。
まとめ・表現	6	○グループで学習してきたことを基に、より良い町にするための提案をまとめる。 ※まとめ方は、壁新聞、個人新聞、ポスター、プレゼンテーション、動画等グループの学習に合わせて選択させる。 ○探究発表会を行う。 ※1グループの持ち時間を、発表、質問・感想、準備・片付けも含めて10分とし、2時間で発表会ができるようにグループ数を割り当てる。 ※地域の専門家や役場の職員にも聞いていただく。 ※この単元の学習を通して、町の魅力に気付かせ、未来の町のために自ら関わっていきこうという前向きな心を育みたい。(社会参画の心)
振り返り	1	○これまでの取組や地域の方々から学んだことを振り返り、これからの自分の生き方について考える。 ※今後も「探究的な学習」に取り組んでみたいという気持ちで学習を終える。

協

グループで話し合わせ、調査計画を立て、見通しをもって学習ができるようにさせる。

調査計画を基に、情報収集の仕方やインタビュー先を把握し、「情報の収集」の指導に生かす。

協

他グループの学習と比較させ、参考になるところや自分のグループの足りないところに気付かせ、学習を深めさせる。

「整理・分析」をした結果、情報の収集が足りない場合は、追調査を促したり、魅力や改善策の提案につまずいている場合は、具体的に助言したりする。

協

他者評価を受けることで、新たな課題に気付かせたり、社会に関わることへの喜びを感じさせたりする。

今回の探究的な学習を通しての自分の成長を生徒に気付かせ、次の学習へとつなげる。

高等学校

○単元名「自己理解を深めよう」(全 28 時間)

みがく

はしる

段階	時数	主な学習活動 ※指導上の留意点
課題の設定	8	○「自己理解プロジェクト(総合的な探究の時間)」の学習内容について知る。 ※教師が事前に作成した成果物をモデルとして提示し、その成果物を示しながら発表している様子を視聴させる。 ○探究課題のテーマを導き出し、決定する。 ※思考ツールとしてウェビングマップ(ワークシート)を活用し、課題を設定させる。 ○課題解決に向けて、どのように探究活動を行うか、探究活動計画書にまとめ、活動の見通しを持つ。 ○探究活動計画書を級友の前で発表する準備をする。 ○HRで探究活動計画書の発表をする。 ※自分の発表に対する級友からの意見・感想を確認するとともに、必要に応じて今後の探究活動の方向性を修正させる。
情報の収集	6	○課題解決のために PC 室のパソコンや生徒用タブレット端末、個人の ICT 端末、図書資料などを活用したり、観察、実験したりして情報収集することを知る。 ○観察・実験等を実施し、情報を収集する。 ※情報源が一つのものに偏らないように、複数の情報源から情報を得るように助言する。 ○獲得した情報や収集・蓄積の方法について情報交換する。 ※グループで獲得した情報や情報の収集の方法について、良かったことや困っていることについて情報を共有させ、自分の探究活動にフィードバックさせる。

ウェビングマップを活用しイメージを広げることで、テーマを多面的に捉えたり、細分化して具体的に捉えたりする機会を設定する。

教師が手本を示すことにより、生徒に今後の活動について見通しを持たせる。

協

異なる視点での意見を受け、自分の意見を再検討させる。

インターネットで情報を収集するだけでなく、観察、実験などの体験活動の機会を設定する。

協

多様な情報などを活用させるため情報交換を通して考えさせたり、話し合ったりさせる。

ある事象に対する複数の情報を集めることで、整理・分析の過程で、情報の比較、分類、関連付けなどしやすくさせる。

生徒の思考を可視化させるために思考ツールを活用する場面を設ける。

整理・分析	4	○収集した情報の比較, 分類, 関連付けなどを行い, 自分なりの結論を導く。 ○情報を分析するに当たり, 必要に応じて思考ツールを活用し, 思考を可視化する。 ※思考ツールを使うことや新たな問いを立てて分析することを生徒の作業の進行状況などに合わせて助言・提案する。 ○自分なりに出した結論に対して, 他者から評価を受ける。 ※教師と面談する機会を設定し, 生徒の探究活動の成果について検討するとともに, 必要に応じて教師がテーマの焦点化や情報の追加収集を助言したり, 提案したりする。
	8	○課題解決の成果をだれにどのような項目でまとめ伝えるのか, 教師の作成した例などを参考にしながら, ポスターを作成する。 ○各HR教室で作成したポスターを使って, 探究した内容について発表をする。 ○次時に各教室で掲示して全体への発表ができるように準備する。 ○各HR教室にポスターを貼付した模造紙を張り出す。 ○各教室を巡り, 各HR教室にポスターが貼られているのを見学する。 ※自分が興味を持った発表や内容が良かった発表についてワークシートに理由などを書き込み提出させる。 ※ワークシートのコメントは, それぞれの発表者にフィードバックする。
まとめ・表現		
振り返り	2	○これまでの活動を振り返るとともに, 自分が探究を通して身に付けたこと, 高まったこと, 深まったこと, 伸びたことを記述し, 学習活動を通して得た新たな問いや考えなどをワークシートにまとめる。 ○次年度の活動について見通しを持つ。

相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり, 表現したりさせる。

協

他者の存在を意識させることにより, 生徒の相手意識や仲間意識を育ませる。

生徒の作業の進捗状況などを見取り, それに合った助言や提案などを行う。

協

教師と生徒が面談の中で多様な情報や異なる視点を出し合い, 探究テーマについて検討するための機会を設ける。

他の生徒のコメントから新たな気づきや問いを持つことができるようにさせる。

小学校第3学年総合的な学習の時間指導計画

1 単元名 「目の不自由な人がくらしやすい東大崎にしよう」 ～視覚障害者のくらしについて理解し、共に生きよう～

2 単元の目標

視覚障害について調べたり疑似体験をしたりすることを通して、視覚障害者の生活や、障害者を支える制度及び道具について理解し、視覚障害者の思いや自分たちにできることは何かを考えるとともに、学んだことを自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①視覚障害者の生活について知るとともに、障害者を支える制度及び道具があることを理解している。 ②疑似体験や調査活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。 ③視覚障害者の生活や思いに対する認識の高まりは、視覚障害者に対して、自分は何ができるかを探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①普通の生活と疑似体験で感じたことのギャップを基に課題を設定し、解決の見通しを持っている。 ②視覚障害者がくらしやすい地域とはどのような地域か、その方々のために自分たちができることは何かについて必要な情報を収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③課題解決に向けて、困っていることや自分たちにできることなどの観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④自分たちが考えた内容について、相手や目的に応じて分かりやすく表現している。	①視覚障害者の生活や思いに関心を持ち、自己の生活を見詰め直し、進んで探究的な学習に取り組もうとしている。 ②疑似体験や調査活動を通して得た知識や、友達の考え、ゲストティーチャーの意見を生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③地域との関わりの中で自分ができることを見付けようとしている。

(2) 単元の指導計画 (25 時間扱い 本時 6/25 時間)

段階	時	小単元名	○主な学習活動・予想される児童の反応 ※指導上の留意点	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	1	目の不自由な人の生活について考えよう	○パラリンピック（水泳・ブラインドサッカー）の写真や動画から、目の不自由な人が競技を行えるようにするための工夫について気付く。 ・背中を棒のような物で押している。 ・ボールから音が出ている。 ・ゴーグルを付けている。 ○国語3年下「パラリンピックが目指すもの」を読み、障害者も自分たちと同じようにより良い生活を送ろうとしていることに気付き、目の不自由な人のくらしについて話し合う。 ※くらしやすさを向上させるための制度及び道具などを考えさせることで、課題への関心を高める。	①			発言、ワークシート、振り返りシート
	2		○目が不自由な人の生活を想像したり、目隠しをして教室や廊下を歩いたりする体験を通して視覚障害者の生活について考える。 ・やっぱり目が見えないと不便が多い。		①		ワークシート、振り返りシート

			・目隠しして歩くと怖かった。 ○目が不自由な人の生活について知りたいことや疑問に思うことを考える。 ・大変なことは何だろう？ ・外を歩くときに困ることは何？ ○知りたいことや疑問に思うことを調べるための方法について話し合う。 ※インターネットで調べるという考えが予想されるが、実感を伴う理解につながるかどうか考えさせ、多様な方法があることに気付かせる。				
情報の収集	3 ～ 5	アイマスク・白杖体験をしよう	○疑似体験を通して、その不便さを実感する。 ※社会福祉協議会へ講師派遣依頼をする。 ※目的を明らかにした上で、体験を実施する。 ○目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするために調べたいこと（仮の課題）を設定する。（個人） ・盲導犬ってどのような訓練をしているの？ ・点字について詳しく知りたい。 ・目が不自由な人はどんなところで困っているのだろう。 ・自分たちに出来ることはないかな。 ※課題を設定するときの視点を知らせることで、探究する価値のある問いを設定させるようにする。 <課題を設定するときの視点> ・「はい」「いいえ」で答えられるような問いにしない。 ・「どのような」「どうすれば」など多くの答えや考えが出てくるような言葉を使いながら設定する。	②		②	知②行動観察 態②ワークシート、振り返りシート
課題の設定	6 本時	目の不自由な人の生活について考えよう	○個人で立てた仮の課題を再検討し、似た課題ごとにグループを作り、本課題を設定する。 ※クラゲチャートを使い、課題を作っていく。 ・盲導犬を連れた人に会ったときにはどうすればよいのか。 ・点字ブロックはどのような所にあるとよいのか。 ・目の不自由な人たちのために、自分たちにできることは何か。 ・生活をサポートするために自分たちができるちょっとした行動。 ・目の不自由な人がくらしやすい地域にするために工夫できることはないか。		①		ワークシート、振り返りシート
	7		○グループごとに課題解決の計画を立てる。 ※教室掲示を活用し、探究の過程を確認する。 ※インターネット上の情報だけでなく、インタビューや図書資料など多様な情報収集の手段があることを知らせる。		①		ワークシート、振り返りシート
情報の収集	8 ～ 12	目の不自由な人の生活について調べよう	○設定した課題についてグループごとに調べる。 ・盲導犬とのくらしについて調べよう。 ・学校の周りにある点字ブロックを調べてみよう。 ・目の不自由な人が不便に感じていることについてもっと調べよう。 ・目の不自由な人の生活を便利にする工夫について調べよう。 ※グループごとに情報収集をさせる。		②	①	思②ワークシート 態①行動観察、振り返りシート
整理・分析	13	目の不自由な人との関わり方について考えた	○集めた情報を種類ごとに整理する。 ※整理の観点 ・公式なデータ ・目が不自由な人から聞いた意見 ・福祉の専門家から聞いた意見 ・自分や友達の考え など		③		行動観察、振り返りシート

	14 ～ 15	ことを伝えよう	○情報の整理や分析の方法を考え、集めた情報から何が言えるか、目が不自由な人たちがくらしやすい東大崎にするにはどうすればよいか、自分たち考えを検討する。 ※思考ツールを活用し、比較、分類、類推、関連付けなど、思考の可視化を図る。		③		ワークシート、振り返りシート
	16		○目が不自由な人がくらしやすい東大崎にするための考えを伝えるために、どの情報を選択すれば良いか考える。 ・困っていることを伝えることから始めよう ・盲導犬との接し方について知ってもらおう ・自分たちなりのアイディアを発信してみよう		③		行動観察、振り返りシート
まとめ・表現	17		○福祉協議会の方に向けて、自分たちの考えを発表するという相手意識や目的意識を明確にし、まとめ・表現するための計画を立てる。 ※今回は Keynote を使ってまとめることとし、プレゼンテーションにまとめるときのポイントについて全体で学ぶ機会とする。			②	行動観察、振り返りシート
	18 ～ 22		○目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするために、自分たちが伝えたいことをまとめる。 ※話し合いをしたり、文章に表現したりする中で、自分の考えをより明らかにしたり、新たな課題を見付けたりできるようにさせる。 ※説得力を持って伝えるための根拠となる資料と方法を選択するようにさせる。	③		①	知③ワークシート 態①ワークシート、振り返りシート
	23		○プレゼンテーションや発表原稿を推敲する。 ※自分たちが伝えなかったことが正しく伝わるかという視点で推敲させる。		④		成果物、振り返りシート
	24		○福祉協議会の方に向けて発信する。 ※オンラインでの発表も検討する。			③	発言、振り返りシート
振り返り	25	これからの生活や行動について考えよう	○単元の学習を振り返り、目が不自由な人との関わり方について考えたことを振り返りシートにまとめ、意見を交流する。 ※目が不自由な人に対する考え方が、学習の前と後でどう変わったか、学習を通して新たに気付いたことや分かったことは何か、学習した結果新たに見えてきた課題は何か、などの視点を示した上で考えを記入させる。 ※意見交流や話し合いを通して、障害があることは「不便ではあるが不幸ではない」ということに気付かせるようにする。	③			振り返りシート

4 本時の計画

(1) 目標

目の不自由な人のくらしについて、グループで互いの考えや思いを伝え合うことを通して、単元を通したグループ内における課題を設定する。

(2) 指導に当たって

本時は、個人で設定した仮の課題を基に、クラゲチャートを活用し、グループとしての課題を設定する時間となる。課題意識を高めたり探究するにふさわしい課題にしたりするために、「目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするには」「自分（たち）にできることはないか」など視点を示したり、声掛けをしたりするようにする。グループの課題にうまく取り入れられなかった個人の課題につ

いては、選んだ課題を解決する中で解決するものもあったり、早く解決したときに別の課題について取り組んでも良いことを伝えたりすることで、児童に安心感や満足感を与えるようにする。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問◆予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
導入 3分	1 前時の振り返りと本時の学習課題の確認をする。 グループごとに課題を設定しよう。	◎前時の活動を振り返らせることで、その時の気付きや思いを想起させる。 ◎個人の仮の課題を基に、グループで本課題を設定することを伝える。	
展開 37分	2 グループで課題を練り上げる。 ○クラゲチャートを使って個人の課題を基にしながらグループとしての課題を決めましょう。 ①足部分に個人の課題を入れる。 ②課題を練り上げる視点を踏まえながら、グループとしての課題について話し合いをする。 ③決まった課題を頭部分に記入する。 ◆みんなの意見をまとめるのが難しいな。 ◆調べたあと、どうしたいかも考えた方が良さね。 4 設定した課題を確認する。 ○話し合った結果を、発表しましょう。 ＜予想される課題＞ ◆目が見えない人が安心して外を歩けるまちってどんなまちか。 ◆目が見えない人を助ける人はどんな人で、どうやって助けているのか。 ◆目が見えない人とどのように関わればよいか。 ◆盲導犬を連れている人に会ったら、どう接すれば良いか。 5 次時の方向性を示し、選択する。 ○課題解決のために調べる方法は様々ありますが、みなさんはどのような方法で調べたいですか。 ◆調べる方法を考えてみよう。 ◆詳しい人に話を聞いてみたいな。 ◆何ができるか考えてみよう。	◎個人の課題は付箋に書かせ、貼らせる。 ◎課題を練り上げる視点を示すことで、深い学びになる課題を設定させる。 ＜視点＞ ・目の不自由な人がくらしやすい東大崎にするには。 ・自分（たち）にできることはないか。 ◎調べて終わりとなりそうな課題になりそうなグループには、「調べて何がしたいか」「くらしやすい東大崎づくりにどうつながるのか」などと問い返すことで、課題に深みを持たせるようにする。 ◎自分たちでは出てこなかった課題に出会ったときは、付け加えても良いことを伝えることで、広い視野でテーマと向き合えるようにさせる。 ◎「インターネットで」という意見が予想されるが、調べる方法は多様にあることと、対象に直接触れることの大切さを伝えることで、実感を伴う学習になるようにさせる。 ◎次時の見通しを持たせることで、主体的な活動を継続していけるようにさせる。	【思】 仮の課題を集めて話し合い、互いの思いや考えを出し合い共有する中で、「目の不自由な人がくらしやすい東大崎について考え、発信しよう」という単元を通した課題を設定している。 (ワークシート・振り返りシート)
終末 5分	6 本時の振り返りをする。 ○今日の活動を通して考えたことや、次の時間に向けて考えていることについて書きましょう。	◎観点を示して振り返りをさせることで、自己の学びを自覚させたり次時への意欲を持たせたりする。	

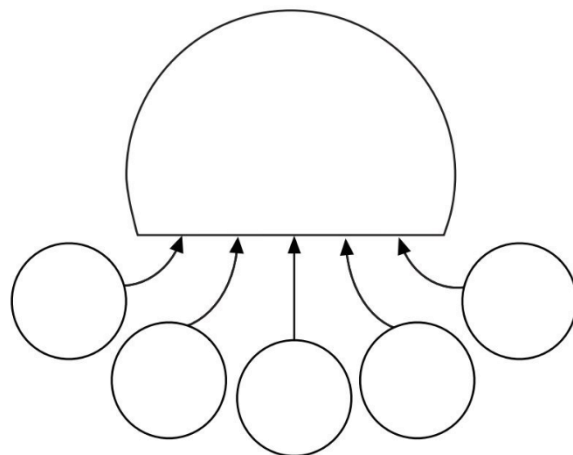
(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準
思考・判断・表現	仮の課題を集めて話し合い，互いの思いや考えを出し合い共有する中で，「目の不自由な人がくらしやすい東大崎について考え，発信しよう」という単元を通した課題を設定している。

(5) 板書計画

グループごとに課題を設定しよう。

- ・目の不自由な人がくらしやすい東大崎するには
- ・自分（たち）にできることはないか



学びの足あとカード

3年 氏名()

1	月 日	だん かい 段 階
	/	か だ い せ っ て い じ ょ う ほう し ゅ う し ゅ う 課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現
まとめ (学んだことや, 進みぐあいなどを書こう)		
次の時間にやること (次にやること, やるとよいと思うことを書こう)		
ふり返し (今日考えたこと, 次に向けて考えていることなどを書こう)		

2	月 日	だん かい 段 階
	/	か だ い せ っ て い じ ょ う ほう し ゅ う し ゅ う 課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現
まとめ (学んだことや, 進みぐあいなどを書こう)		
次の時間にやること (次にやること, やるとよいと思うことを書こう)		
ふり返し (今日考えたこと, 次に向けて考えていることなどを書こう)		

小学校第4学年総合的な学習の時間指導計画

1 単元名「エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～」

2 単元の目標

大谷海岸のごみについて調べたり，大谷海岸の環境保全に向けた活動に協働で取り組んだりすることを通して，環境を守り続ける人々の意図や願いを理解し，環境保全に対する具体的な取組について考えるとともに，自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大谷海岸にあるごみと自分たちの生活には関わりがあることを理解している。 ②大谷海岸にあるごみの状況を捉えるために，ごみの種類に着目しながらフィールドワークを実施している。 ③大谷海岸のごみと自分たちの生活には関連があるとの理解の深まりは，自分たちの地域を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①大谷海岸でのごみ調査を基に，ごみが環境に与える影響について問題を見付け出し，課題を設定している。 ②大谷の海の現状や海洋ごみが環境に与える問題を捉えるために必要な情報について，調査する対象に応じた方法を選択し収集している。 ③ごみが環境や生態系に与える影響や環境保全に役立つ情報について収集した情報を分類・整理し，考えている。 ④大谷の海の環境を守るための取組についての自分たちの考えを，目的や相手に合わせて分かりやすくまとめている。	①大谷の海の環境を守るという目的に向け，自分自身で設定した課題の価値を理解している。 ②大谷の海の環境を守るための取組について伝えるために，友達の考えを生かしながら，協働して課題解決に向けて取り組んでいる。 ③自分と大谷海岸や地域の人々とのつながりに気付き，地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。

(2) 単元の指導計画（35時間扱い 本時 12／35）

段階	時	小単元名	○主な学習活動 ・児童の反応 ※指導上の留意点	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	1	1 大谷海岸にあるごみについて調べよう。	○海に親しむ集いで行った海岸清掃について振り返る。その際，活動時の写真を見せることで，想起させやすくする。 ・みんなで砂浜をきれいにできた。 ・結構ごみがあってびっくりした。 ※「どのようなごみがあったのかな？」と問うことで，児童に活動で持ち帰ったごみを詳しく見てみたいという思いを持てるようにさせる。	①			発表，ワークシート，振り返りシート
	2・3		○海岸清掃で拾ったごみの調査を行う。 ＜内容＞分別したごみの重さを量る。 分類したごみ毎に写真をとる。 ・ガラスの破片が結構あった。 ・ペットボトルやビニール袋などのプラスチックがあった。 ○ごみを分別して感じたことを整理する。（個人）※ロイロノート ・こんなにごみがあるとは思わなかった。	①			行動観察，ワークシート，振り返りシート

課題の設定		・ポイ捨てはしないでほしい。 ・環境によくないプラスチックなどがたくさんあった。				
	4	○今後の学習の見通しを立てる。 ※ごみ調査②に至るまでの児童の思いが大切となるので、児童に揺さぶりを掛けながら切実感を引き出す。 ※「実は前に日にごみ拾いが…」 ※「このまま、学習を進めますか？」 「ごみ調査は十分ですか？」 ・できればもう一度ごみ調査に行きたい。 ・ごみ調査の仕方を知りたい。（専門家）	①			ワークシート, 振り返りシート
	5	外部講師による講話① ○海に親しむ集いでお世話になったNP ○法人はまわらすの方の講話を聞く。 ※普段から海に関わる仕事をしていて、その中で感じる「海洋ごみ」についての現状や思いを伝えてもらう。 ※海に親しむ集いで児童が見えてこなかったであろう内容（ごみの種類や分別の仕方など）について話していただくことで、ごみ調査②の活動につなげる。	①			発表, ワークシート, 振り返りシート
	6 ～ 9	○大谷海岸のごみ調査②を行う。 ・自分たちの手で、今度はどのくらいごみが集まるのかしっかり調べたい。 （活動2h, 分類1h, まとめ1h）	②			行動観察, ワークシート, 振り返りシート
	10	○ごみ調査②を行って感じたことを整理する。（個人） ※体験活動後の振り返り ※ワークシートをロイロノートに保存	①			ワークシート, 振り返りシート
	11	外部講師による講話② ○海に親しむ集いでお世話になったNP ○法人はまわらすの方に、ごみ調査の結果を伝える。 ※普段からごみ拾いをしているが、ごみはなくなることはないこと、そして海はつながっており、世界的な視点でも、海洋ごみが問題になっていることを話していただき、次時の活動につながりを持たせる。	①			ワークシート, 振り返りシート
	12 ※本時	大谷海岸から環境を考えよう ○海洋ごみの現状について知る。 ※世界各地に広がる海洋ごみの現状を、映像資料を通して見せることで、大谷の海で起きていることが世界でも起きていることに気付かせる。 <予想される児童の反応> ・びっくりした。 ・世界の海にもこんなにゴミがあるととは思わなかった。 ※「はまわらすの方のお話や大谷海岸や世界の海のごみ現状を知って、一番問題だと思うことはどのようなことですか」と問うことで課題意識を高めさせる。		①	①	発表, ワークシート, 振り返りシート

			<予想される児童の反応> ◆海洋ごみがたくさんあること ◆ペットボトルや発砲スチロールなど生活ごみが多いこと ◆海洋ごみが生き物に影響を与えること ◆外国製品のごみもあること ◆環境に悪いごみ（プラスチックなど）があること 【児童が設定すると思われる課題例】 ○プラスチック問題（ごみの種類に特化） ・プラスチックは環境にどのような影響をあたえるのだろうか。 ○海的环境悪化による生態系への影響 ・ごみは海にくらす生き物にどのような影響を与えるのだろうか。 ○海洋ごみが海にもたらす影響 ・ごみは海にどのような影響を与えるのだろうか。 ○ごみが減らない理由 ・大谷海岸にあるごみはどこからやってくるのだろうか。 ○ごみを減らす取組 ・ごみを減らすにはどうすればよいのだろうか。				
情報の収集	13	大谷海岸から環境を考えよう	○個人で課題を設定した後に、似ている考えごとにグルーピングする。 ○課題を調べるための方法について具体的に考える。 ※「みんなの疑問を解決するためにどのようなことが必要ですか？」と問うことで、情報収集の方法について考えさせる。 ・インターネットや本を使って調べる。 ・漁師さんにインタビュー（電話なども可）する。 ※児童が目指す学習のゴールについて確認する。 （まとめ方、発表対象等）		②		行動観察, ワークシート, 振り返りシート
	14 ～ 19		○グループ毎に必要な情報を集める。 <児童がもとにするもの> ・海岸清掃で、個人でまとめた資料 ・はまわらすの方々からの資料 ・インターネットで検索した資料		②	②	行動観察, ワークシート, 振り返りシート
整理・分析	20 ～ 24		○グループごとに、調べたことをまとめる上で必要な情報を整理する。 <整理分析の観点> ・どの情報が一番必要か。 ・似ている情報はないか。 ・足りない情報はないか。 ・根拠は十分か。 ※必要に応じて再調査を行う。 ※思考ツールを活用する（K J 法等）。		③	②	行動観察, ワークシート, 振り返りシート

まとめ	25 ～ 30	環境について調べたことを発信しよう	○テーマを基に調べたことを、構成を考えながらポスターにまとめる。 ※資料や写真の効果を考えながらまとめる。 ※発表原稿も作成し、ポスターを活用して発表できるようにさせる。 ※発表原稿が二次的情報をそのまま読むだけのようにならないように留意させる。(自分たちの言葉になっているか)		④	②	行動観察, ポスター, 振り返りシート
	31 32		○ポスター, 発表原稿の推敲を行う。 ※推敲する時間 (2時間)		④	②	行動観察, ポスター, 振り返りシート
表現	33 34		○大谷の海の環境を守るための取組について発表会をしよう。 ※可能であれば講師の方々を招待する。 大谷里海づくり協議会 三浦さん NPO法人はまわらす 天澤さん ※グループに分かれてポスター発表会を行い, 感想を伝え合う。(学級内) ※道の駅に児童の成果物を掲示する。			③	発表, 行動観察, 振り返りシート
振り返り	35		○発表会を振り返り, 感想をまとめた り, 新たな課題を見付けたりする。 ＜振り返りの観点＞ ・調べて分かったこと ・これから更に調べてみたいこと ・疑問に思ったこと ・自分たちにできること ・これから取り組んでいきたいこと 等	③		③	発表, ワークシート, 自己評価, 振り返りシート

4 本時の計画

(1) 目標

これまでの学習を振り返りながら, 自分が探究していきたい内容について考え, 課題を設定する。

(2) 本時の指導に当たって

児童はこれまでに, 大谷海岸でのごみ調査やごみの分別作業を行い, 地元の海のごみ問題について学んできた。児童が, ごみの重さを量ったり種類毎に分別したりしたところ, プラスチックや缶, ガラスなどが多いことが分かった。さらに, 普段目にする機会の少ない漁業関係のごみが多いことにも気付くことができた。これらのごみは, 自分たちの生活につながりが深いものであり, 自然に返りにくいものでもあることから, 児童の中には, ごみが生態系や環境に与える影響について懸念を示している児童もあり, 環境への関心を高めながら学習に取り組んでいる様子がうかがえる。しかし, 海的环境や生態系への影響がどれほど深刻なもので, どのように行動していけばよいかといった具体的な手立てについて考えている児童は少ない。そこで, 本時では, 他地域の環境課題を映像資料で提示し, 大谷の海で起こっている問題が世界的にも起こっている事象でもあることを示すことで, 児童の環境問題への意識を更に高めさせ, 課題を設定する際の動機付けへとつなげたい。また, 学習ファイルを使ってこれまでの学習を想起させたり, ICT機器を活用して考えを共有したりさせることで, 児童が探究課題をより自分の事として捉えるための手立てとしたい。

(3) 指導過程

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応 1 これまでの学習を振り返るとともに本時の流れを確認する。 2 本時の学習課題を確認する。 環境を守るために調べたいことは何か考えよう。	◎これまでに大谷海岸のごみ調査、講師の方に講話をいただいたことを確認する。 ◎本時は、これまでの学習を基に、環境を守るために調べていきたいことは何か考えていく(探究学習の課題を設定)ことを伝える。	
展開 35分	3 海洋ごみの現状について知る。 ○映像を見てどう思いましたか。どのようなものが映っていましたか。 ◆びっくりした。 ◆世界の海にもこんなにゴミがあるとは思わなかった。 ◆プラスチックやビニールなどの自然に返りにくいものが浮いていた。 ◆ゴミのまわりに生き物がいた。 4 これまでの学習(体験活動を含めて)を振り返りながら、調べていきたいことについて意見を出させる。 ○「はまわらす」さんのお話や大谷海岸の現状、世界の海のごみの様子を知って、みんなが一番問題だと思ったこと(気になったこと)はどのようなことですか。 ◆海洋ゴミがたくさんあること ◆ペットボトルや発砲スチロールなど生活ゴミが多いこと ◆海洋ゴミが生き物に影響を与えること ◆外国製品のごみもあること ◆環境に悪いゴミ(プラスチックなど)があること等 5 これから調べたい内容について探究課題を設定する。(個人) ○これから調べたい内容について探究課題を設定しよう。 【設定すると思われる課題例】 ○プラスチック問題(ごみの種類に特化) ・プラスチックは環境にどのような影響を与えるのだろうか。 ○海の状態悪化による生態系への	◎世界各地に広がる海洋ごみの現状を、映像資料を通して見せることで、大谷の海で起こっている海洋ごみの問題が世界でも起こっていることに気付かせる。 ◎大谷海岸でのごみ調査と関連付け、映像中のごみが生活につながりが深いものであり、自然に返りにくいものであることに気付かせる。 ◎生き物についてもふれ、外部講師から講話をいただいた、ごみは生態系に影響を与えることについても確認する。 ◎これまでの学びを蓄積した総合ファイル(ポートフォリオ)を基に、これから調べてきたい課題を決定させる。 ◎本質的な問いに迫るために、自分が一番関心を持っていること(調べたいという思いが強いもの)に絞ることを伝える。 ◎内容を選んだ動機の強さが、児童の今後の探究活動の持続性に関わるので、関心のある内容を選んだ理由についても書かせるようにする。 ◎内容を選ぶことが難しい児童には、これまでの学習で興味を持ったことについて声掛けを行いながら、自分の考えを表現できるように働き掛ける。 ◎「なぜ、どうして、どのような、どうすれば」などの言葉を入れるように声掛けをする。 ◎学習支援アプリ「ロイロ・ノート」に自分の考えを記入させ、提出させる。 ◎探究課題を立てることが難しい児童には、他の児童の探究課題をヒントにしながら考えるよう声掛けを行う。 ◎課題の設定が早く終わった児童には、どのように調べていけばよいか具体的な案	【思・判・表①】 ・大谷海岸でのごみ調査を基に、ゴミが環境に与える影響について問題を見つけ出し、課題を設定している。(発表, ワークシート) 【態度①】 ・大谷の海の状態を守るという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。(発表, ワークシート)

	影響 ・ごみは海で暮らす生き物にどのような影響を与えるのだろうか。 ○海洋ごみが海にもたらす影響 ・海洋ごみは海にどのような影響を与えるのだろうか。 ○ごみが減らない理由 ・大谷海岸にあるごみはどのからやってくるのだろうか。 ○ごみを減らす取組 ・海洋ごみを減らすにはどうすればよいのだろうか。 6 設定した探究課題を発表する。	を考えさせ、先の活動に見通しを持たせる。 ◎児童が設定する探究課題は、左記の5種類のいずれかになると想定する。テーマ毎のグルーピングについては、次時で扱う。 ◎課題の設定が途中でも、できたところまでのものを発表させる。	
終 末 5 分	7 今後の活動について考える。 ○これからの活動は、個人で行いますか。それともグループで進めますか。 8 本時の学習の振り返りを行う。	◎探究課題の解決に向けた方向性について、児童の意見を聞く。 ◎グループで進める方向になると想定されるが、個人で進めるほうが良いとの意見が多い場合には、できる限り児童の意向を聞きながら学習を進めるようにする。 ◎今日の学習の振り返りを行わせる。 ＜振り返りの観点＞ ・分かったこと ・難しかったこと ・これから頑張りたいこと 等 ※振り返りシートを活用（自己評価）	

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準
思考・判断・表現①	大谷海岸でのごみ調査を基に、ごみが環境に与える影響について問題を見つけ出し、課題を設定している。
主体的に学習に取り組む態度①	大谷の海の環境を守るという目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。

(5) 準備物

- ①教師：タブレット端末，プロジェクター
- ②児童：ワークシート

(6) 板書計画

エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～

学習課題

【自分が一番問題だと思ったこと】

・

※選んだ理由

⇒

「問いストーリー」

・なぜ ・どのような

・どうして ・どうすれば

みんなの願いは・・・？

プロジェクターで
資料映像や児童の
考えを投影する。

ワークシート

4年 No. 氏名()

かだい せってい
課題の設定じょうほう しゅうしゅう
情報の収集ぶんせき
整理・分析

まとめ・表現

課題

～メモ～

◆まとめ (今日の授業で分かったことや気付いたことを書こう)

◆次の時間のこと

(次の時間にやってみたいこと,
調べてみたいことを書こう)

◆ふりかえり ・今日の課題をクリアできましたか? (自己ひょうか : ◎ ・ ○ ・ △)

中学校第1学年総合的な学習の時間指導計画

1 単元名「大和に学び、大和を知ろう」

2 単元の目標

大和町のまちづくりやそれに携わる人々について調査する活動を通して、地元の特徴や人々の思いを理解し、ふるさとの良さや課題、自分たちとの関わりについて考えるとともに、ふるさとのためにできることを考え行動しようとする。

3 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大和町のまちづくりに関する取組とそれに携わる人々の思いがあることを理解している。 ②大和町の良さや人々の思いを理解するために、目的に応じて情報を収集したり、インタビューをしたりしている。 ③自分たちの関わりが大和町の活性化につながることを理解の深まりは、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①大和町について、地域資源（自然・文化・歴史・人材・食・伝統工芸）を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域の良さや町の課題を明らかにし、探究課題を設定している。 ②大和町の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択し多様な方法で収集している。 ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④大和町の活性化につながる取組について、調査結果や企画内容を、グラフや図、写真等を使って効果的に表現している。	①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。 ②大和町について調べる活動体験を通して、他者の考えを生かしながら、協働して問題解決に取り組もうとしている。 ③大和町の活性化のために自分たちにできることを提案することを通して、積極的に社会に参画しようとしている。

(2) 単元の全体計画（20 時間扱い 本時 6・7 / 20）

段階	時	小単元名	○主な学習活動 ◆生徒の反応 ※指導上の留意点	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	(夏休み中)	(事前調査)	○大和町について、気になっていることや調べてみたいことを見付け、レポートを書き、大和町に対する興味・関心を高める。（社会・総合的な学習の時間課題） (例) ◆水害が多いのはなぜか ◆川の工事が進められているのはなぜか ◆交通の便が悪いのはなぜか ◆舞茸や伊達イワナが有名なのはなぜか ◆七ツ森や島田飴は全国でも有名か ◆吉岡宿はどんな町だったか ◆吉田地区、落合地区、鶴巣地区、吉岡地区の有名な物は何かなど ※夏休み明けに回収し、生徒の興味・関心を把握する。 ※生徒の興味・関心は、まちづくり・自然・文化・歴史・人材・食・伝統工芸・産業に分類されると予想。				

課題 の 設 定	1	1 大和町のまちづくりやそれに携わる人々について知ろう。 (11 時間)	○夏休みの課題で出た個人の意見を元に、学級全体で情報を共有する。 (テキストマイニング、ウェビング) ※小学校時代に行った地域学習についてもウェビングに加えさせる。 ※自分の小学校区の特徴について情報を伝え合い、大和町には自分がまだ発見していない魅力があることに気付かせる。 ※教員も、生徒が知らないような、大和町の魅力の例を一つ挙げ、大和町に対する興味・関心を高めさせ、町をよく知る人から話を聞いてみたいという思いを持たせ、次時の講演会へとつなげる。 (例) 実は大和町は… ・2020 年度全国優秀自治体ランキング 第 1 位 ・2021 年度 // 第 2 位 ・大学がある→宮城大学 ・準絶滅危惧のグンバイトンボが発見されたことがある等	①			ワークシート、レポート、観察
	2・3		○大和町の歴史やまちづくりについての講演会に参加し、地域の専門家や役場の職員から話を聞く。 ※国恩記や大和町第五次総合計画について、町役場の方に講話をいただく。大和町が抱えている課題についても話していただく。 講師 吉岡宿本陣案内所から 2 名 まちづくり政策課から 2 名 ○感想を書く。 ※「過去のまちづくり」と「現在のまちづくり」について知り、よりよい町にするために、中学生としてできることに取り組もうという思いを持たせ、課題の設定へとつなげる。	①			ワークシート
	4		○夏休みの課題や講演会を通して生まれた興味・関心を基に、どんなことを探究したいか、自分の考えや思いをまとめる。 ※生徒の記述を基に、教師側で探究グループ編成(案)を作成する。	①			
	5		○探究していきたいと思う内容が近いメンバー同士で、探究グループを作る。個人で取り組みたい場合は個人探究も認める。 ※探究グループ編成(案)を生徒に示し、最終調整を行う。 ※編成終了後からは、担任・副担任でグループを分担し、まとめ・発表まで指導・助言する。				
	6・7 本時		○夏休みの課題や講演会を通して生まれた興味・関心や疑問を整理し、個人の問いを作る。(ワークシート) (例) ◆交通の便が悪いのはなぜだろう？ ◆大和町をテーマにした映画が作られたのはなぜだろう？	①			ワークシート

		1 大和町のまちづくりやそれに携わる人々について知ろう。 (11 時間) ◆美しい七ツ森についてどれくらいの人を知っているのだろうか？ ◆大和町の工業団地にはどんな工場や企業があるのだろうか？ ◆ひだまりの丘公衆浴場が廃業になるのはなぜだろうか？ ○個人の問い基に，グループで意見を出し合い，グループとしての探究課題を設定する。（思考ツール） ※自分たちが本当に取り組んでいきたいと強く思える探究課題となるように，生徒の話合いを見守り，適宜支援する。 (例) ◆吉岡宿の歴史を未来のまちづくりに生かすためにはどうしたら良いだろう。 ◆七ツ森の自然を生かしてまちおこしをするためにはどうしたら良いだろう。 ◆佐藤忠良，原阿佐緒の作品の魅力を伝えるためには，どうしたら良いだろう。 ◆どうすれば伊達イワナや舞茸等の特産品を全国の人々に伝えることができるだろう。 ◆まほろば祭りや島田飴祭りに新たな風を吹かせるために，どのような取組ができるだろう。 ◆大和町の産業の特徴を生かした起業プランにはどのようなものが考えられるだろう。 ◆大和町の交通の便をより便利にするためには，どうしたら良いだろう。等				
情報の収集	8・9	○学習の見通しを持つために，課題解決に向けた調査計画を立てる。 ○書籍，資料，インターネットから情報を収集する。 ※個人のタブレット端末端末を利用する。 ※図書室はグループの代表 2 名まで。 ◆インターネットや図書室の本で十分情報が集められそう。 ◆この収集方法だけでは，不十分。 ※他にどうやって情報を集められるかをグループ毎に考えさせる。 ◆実際に，詳しい話を聞いてみたい。 ◆写真や資料を集めたい。 ◆どこに行けばいいかな。 ◆誰に聞けばいいかな。 ※インターネットで調べきれなかったことについてインタビューするために，質問項目をグループでまとめさせる。 ※事前に地域コーディネーターやボランティアなどの人材をリストアップしておく。（協働教育担当が持っているリストを活用する） ※連絡調整が必要な場合は，学年主任が窓口となって行う。			①	行動観察，ワークシート

	10 ・ 11		○地域の専門家や役場の職員等にインタビューを行い、必要な情報や資料を収集する。 ※直接インタビューに行くことができない場合は、電話、メール、ファックス、オンライン等を活用し、実施する。 ※複数グループのインタビュー先が同一の人物や団体である場合は、質問事項の精選を行う。回答までの時間を見越し次時を設定する。 ※データの蓄積は、総合的な学習の時間用ファイル、クラウドを活用する。	②	②		行動観察、ワークシート
整理・分析	12 ・ 13	2 大和をさらによい町にするための提案を考えよう。(2時間)	○収集した情報から、大和町をよりよい町にするための提案として必要な情報を吟味する。 ◆どちらの情報がより大切な。 ◆集めた情報を仲間分けしてみよう。 ◆この二つは似ている/違っている。 ◆足りない情報をもっと調べよう。 ◆タブレット端末を使ってみよう。 ※タブレット端末や思考ツールを活用させる。 ※他グループの学習の途中経過を参考にさせる。 ※一次情報、二次情報、三次情報の違いに触れ、信頼できる情報であるかを確認させる。 ※まとめ・表現での発信の方法も視野に入れながら、内容を吟味させる。		③	②	行動観察、ワークシート、資料
	14 ・ 15 ・ 16 ・ 17	3 大和をさらによい町にするために発信しよう。(6時間)	○グループで学習してきたことを基に、よりよい町にするための提案をまとめる。 ◆大和町の魅力を再発見できるような新聞にしよう。 ◆住民や町役場の方々に、中学生の自分が考えた提案を伝える新聞にしよう。 ◆どのようにまとめたら伝わるかな。 ◆写真や図、グラフを入れると効果的かな。 ◆他の教科でやったことのあるまとめ方でやってみようか。 ※まとめ方は、壁新聞、個人新聞、ポスター、プレゼンテーション、動画等グループの学習に合わせて選択させる。			④	行動観察、発表資料、ワークシート
まとめ・表現	18 ・ 19		○学級毎に探究発表を行う。 ※1グループの持ち時間を、発表、質問・感想、準備・片付けも含めて10分とし、2時間で発表会ができるようにグループ数を割り当てる。 ※地域の専門家や役場の職員にも聞いていただく。 ◆自分たちの考えを十分に伝えることができた。 ◆まだ十分ではなかったことがあったから、もう少し自分たちの提案や資料を改善したいな。 ※良いアイデアがあれば、今後の大和町のまちづくりに生かしてもらえるように伝える。 (例) ふるさとCMのアイデアとして、役場で展示、「広報たいわ」に掲載等 ※この単元の学習を通して、町の魅力に気付かせ、未来の町のために自ら関わっていこうという前向きな心を育みたい。(社会参画の心)			③	行動観察、発表資料、ワークシート

振り返り	20	4 これからの自分について考えよう。 (1時間)	○これまでの取組や地域の方々から学んだことを振り返り、これからの自分の生き方について考える。 ◆「大和町のまちづくりの提案」やってみておもしろかったな。 ◆「大和町のまちづくりの提案」難しかったけど、他の町でどんなまちづくりをしているかについても探究してみたいな。 ※今後も「探究的な学習」に取り組んでみたいという気持ちで学習を終える。	③			ワークシート
------	----	-----------------------------	---	---	--	--	--------

4 本時の計画

(1) 目標

大和町をよりよい町にするために、自分の考えを他者と共有し、グループとして探究する課題を設定する。

(2) 本時の指導に当たって

夏休みの課題や前時の大和町についての講話を通して、生徒は大和町について、個人の問いを持った。本時は、同じような考えを持つ生徒で探究グループを作り、探究課題を設定する時間である。自分たちの住む地域について真剣に探究していくことができる課題を設定させたい。グループの課題設定の場面では、互いの考えや思いをまとめていく難しさがある。この場面では思考ツールを活用して、個人の問いを発展させたり、複数の問いから一つの課題へと焦点化させたりしたい。また、自分の意見を伝えることが苦手な生徒には、教師、メンバーとの対話を通して少しずつ意見を伝えられるようにする。

(3) 指導過程 (6・7時間目/20時間)

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される生徒の反応	◎指導上の留意点	評価
導入 5分	1 前時の学習を振り返る。	◎前時の講話について振り返らせることで、大和町の魅力を発見していこうという気持ちを思い起こさせる。	
	2 「大テーマ×小テーマ」のグループ毎に机を組み、自己紹介し、リーダー、副リーダーを決める。	◎前時までに決定した1人～4人のグループで、少し間を取りながら机を組むよう伝える。 ※個人探究の場合は、個人メンバーで近くに座り、自己紹介をさせる。	
	3 本時の学習課題を確認する。		
	大和町をよりよい町にするために、グループの探究課題を決めよう！		
		◎本時は、個人の考えをグループの探究課題としてまとめることを伝える。	
展開 90分	4 グループの探究課題を決める。 ①自分が「気になること」を青色の付箋に記入する。 探究課題決定ワークシート1(1) (3分) ②グループのみんなの「気になること」についてまとめる。 探究課題決定ワークシート1(2) (10分)	・ 本時のワークシート, 10/5 に記入したワークシート, 付箋, ペンを配付する。 ◎第4時に記入したワークシートを基に書かせる。 ※考えが複数ある場合は、一つの考えを一枚の付箋に記入する。	【思・判・表①】 大和町について、地域資源(自然・文化・歴史・人材・食・伝統工芸)を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域の良さや町の課題を明らかにし、探究課題を設定しているか。(ワークシート)

③自分の「こうだったらいいな、こうしたいな」を赤色の付箋に記入する。 探究課題決定ワークシート 2(1) (3分) ④グループみんなの「こうだったらいいな、こうしたいな」についてまとめる。 探究課題決定ワークシート 2(2) (10分) ⑤他のグループの話合いの途中経過を見て歩き、参考にする。(4分) ○他のグループがどのような話合いをしているか、見て歩き、参考にしましょう。 ⑥グループの探究課題について話合い、決定したら発表用のワークシートにペン書きする。 (15分) ○自分たちが本当に取り組んでいきたいと強く思える一つの問いに絞るようにしましょう。 ○次は、グループ毎に発表し、探究計画を立てます。では、休み時間です。 (5時間目終了 10分休憩)..... 5 完成したグループの探究課題をクラス全体に向けて発表する。 (10分) ○発表用のワークシートを全体に見せながら、発表して下さい。 6 グループの探究計画を立てる。 探究計画ワークシート (30分) 7 他のグループの話合いの途中経過を見て歩き、参考にする。(5分)	◎ボックスチャートの使い方を説明して、始めさせる。 =ボックスチャートの使い方= ○大きな箱は「個人が気になっていること」です。 自分で書いたふせんを貼ります。 ○真ん中の箱は「グループのみんなが気になっていること」です。 個人の意見をまとめて、書き込みます。 ◎一つ一つのグループを周りながら、話合いを見守り、必要に応じて声掛けを行う。 ◎個人探究の生徒も、周りの生徒と交流させながら、進めさせる。 ◎探究課題の設定の仕方について、確認をしてから始めさせる。 探究課題は、「～について、～のこと」で終わると単なる「調べ学習」になってしまいます。 「～を調べる!」のような動詞で終わる形にしてみよう! 「～は何か?」のような疑問形も Good! また、出来上がった探究課題が、下の条件をクリアしているか確認してみましょう! ☐自分たちが本当に「知りたい」「取り組みたい」と思うものになっていますか? ☐自分たちが取り組もうとしていることは、「誰か」「何か」のために役立ちますか? ◎一つにまとまらないグループには、教師が話合いのヒントとなるような声掛けをする。 ◎まだ課題が決まっていないグループも、現時点での途中経過を報告。 ◎今回決定した探究課題は、調べていく中で、少しずつ変わっていてもよいものだという事を伝える。 ・ワークシートを配布し、内容について確認し、始めさせる。 ◎次の時間まで、自宅でできる下調べなどはどんどん進めていてよいことを伝える。
--	---

終 末 5 分	8 本時の学習の振り返りを行う。 ○次の時間は、タブレット端末と図書室で情報の収集に入ります。 ○では、今日のまとめを振り返りシートに記入して下さい。	・振り返りシートを配付する。 ◎次時の指示を出し、見通しを持たせる。 ◎自分たちの学習の進み具合について把握させ、次は何をするのかについて学習の見通しを持たせる。	
------------------	--	--	--

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準
思考・判断・表現	大和町について、地域資源（自然・文化・歴史・人材・食・伝統工芸）を生かした取組や、携わる人々の思いから、地域の良さや町の課題を明らかにし、探究課題を設定している。

(5) 準備物

①教師：本時の目標，ワークシート（課題設定用，発表用，探究計画用），拡大図付箋（青色，赤色），マジックペン，マグネット

②生徒：総合用ファイル，筆記用具，第4時でまとめたワークシート，タブレット端末

(6) 板書計画

大和町よりよい町にするために，探究課題を決めよう！		
ボックスチャートの拡大図	各グループの探究課題 発表時の掲示スペース	今後の探究計画 (10～12月)の拡大図

(7) 本単元の学習と他教科の学習との関連

地理的分野 「地域調査の手法」 (指導時期：第2学年前期)
「地域の在り方」 (指導時期：第2学年後期)

学習日: R 年 月 日 [自然×セツ森]グループ 氏名

大和町をよりよい町にするために！ グループの探究課題を決めよう！

1(1)「大和町の現在について気になっていることや疑問に思っていること」を青色の付箋に書きましょう。(第4時に書いたことを参考にしましょう。)

Aくん

Bくん

Cさん



セツ森には、
どのような
生き物が生
息している
のかな。A

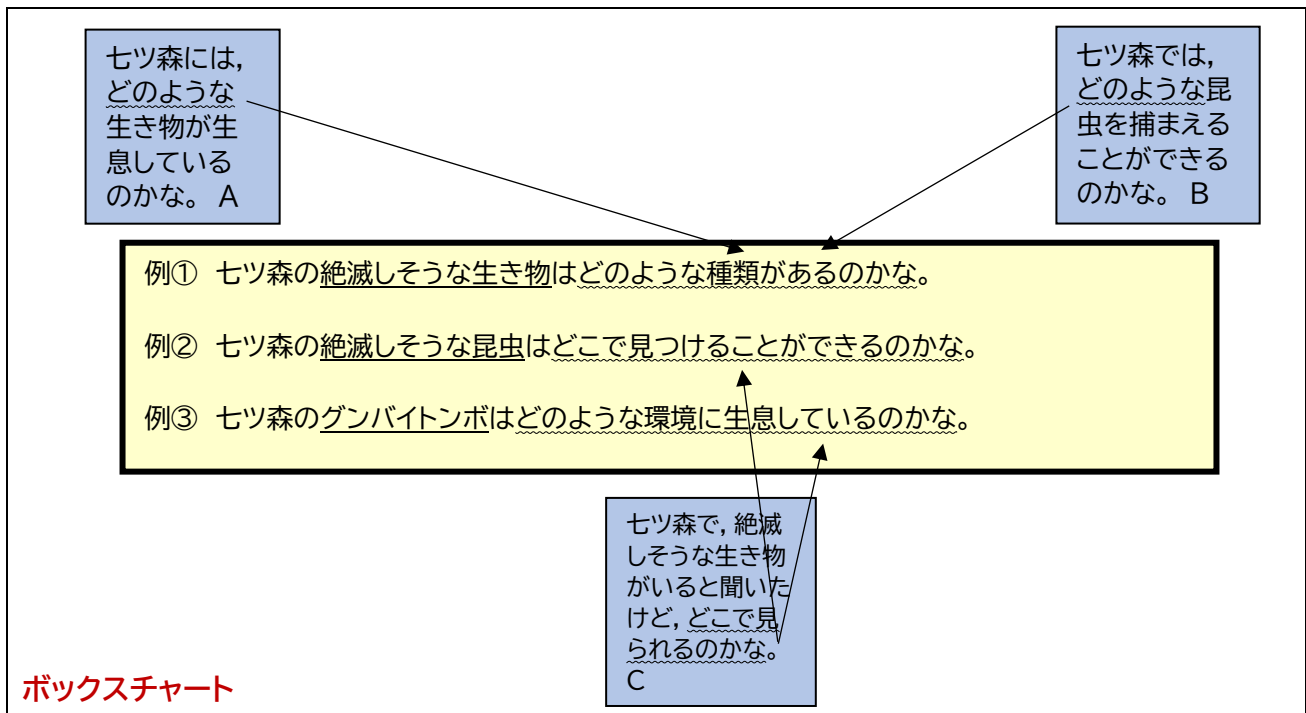


セツ森では、
どのような昆
虫を捕まえる
ことができる
のかな。B



セツ森で、絶滅
しそうな生き物
がいると聞いた
けど、どこで見
ることができる
のかな。C

(2)「グループみんなが気になっていることや疑問」を確認しましょう。



＝ボックスチャートの使い方＝

- 大きな箱は「個人の意見」をふせんに書いて貼ります。
- 真ん中の箱は「個人の意見」をまとめて、「グループみんなの意見」として、書き込みます。
- 探究する対象を「絶滅しそうな生き物」のように広めにまとめたり、「グンバイトンボ」のように焦点化してまとめたりすることができます。グループでよく話し合ひましょう！

2(1)「大和町の未来についてこうだったらいいな、こうしたいなと思っていること」を赤色の付箋に書きましょう。

七ツ森の生き物についてもっと知ってほしいな。 A



多くの人に昆虫観察を楽しんでほしいな。 B



絶滅しそうな生き物を守りたいな。 C



七ツ森の生き物についてもっと知ってほしいな。 A

生き物が生息する環境を守りたい。 A

例① 絶滅しそうな生き物の保護活動に取り組みたい。

例② 絶滅しそうな昆虫が見られる場所を知らせたい。

例③ グンバイトンボの生息する環境を守りたい。

多くの人に昆虫観察を楽しんでほしいな。 B

絶滅しそうな生き物を守りたいな。 C



(2)こうだったらいいな,こうしたいなという「グループみんなの願い」を確認しましょう。

3 1(2)「グループみんなが気になっていること」と,2(2)「グループみんなの願い」を組み合わせ、グループの探究課題を決めましょう。

例③七ツ森のグンバイトンボはどのような環境に生息しているのかな。

+

例③生息する環境を守りたい。

+

探究課題＝「解決したい問い」です。
「どうしたら～?」「どうすれば～?」
というような疑問文にしよう!

グループの探究課題

○良い例
七ツ森のグンバイトンボが生息する環境を守るためにはどうしたら良いか?

×良くない例
「七ツ森のグンバイトンボについて」「七ツ森のグンバイトンボのこと」

探究課題は,「～について,～のこと」で終わると単なる「調べ学習」になってしまいます。また,「インターネットで調べたら,すぐに答えが分かる」＝「浅い問い」。「直接誰かに聞かなければ分からない」「自分で行動を起こさないと分からない」＝「深い問い」です!「深い問い」を目指そう!

最後に,出来上がった探究課題が,下の条件をクリアしているか確認してみましょう!

☐自分たちが本当に「知りたい」「取り組みたい」と思うものになっていますか?

☐自分たちが取り組もうとしていることは,「誰か」「何か」のために役立ちますか?



学習日: R 年 月 日 [×]グループ 氏名

大和町をよりよい町にするために！ **グループの探究課題を決めよう！**

1(1) 「大和町の現在について気になっていることや疑問に思っていること」を青色の付箋に書きましょう。(第4時に書いたことを参考にしましょう。)

(2) 「グループみんなが気になっていることや疑問」を確認しましょう。



ボックスチャート



= ボックスチャートの使い方 =

- 大きな箱は「個人の意見」をふせんに書いて貼ります。
- 真ん中の箱は「個人の意見」をまとめて、「グループみんなの意見」として、書き込みます。
- 探究する対象を「絶滅しそうな生き物」のように広めにまとめたり、「グンバイトンボ」のように焦点化してまとめたりすることができます。グループでよく話し合しましょう！

2(1)「大和町の未来についてこうだったらいいな、こうしたいなと思っていること」を赤色の付箋に書きましょう。

(2)こうだったらいいな,こうしたいなという「グループみんなの願い」を確認しましょう。



ボックスチャート

3 1(2)「グループみんなが気になっていること」と,2(2)「グループみんなの願い」を組み合わせ、グループの探究課題を決めましょう。

グループみんなが
気になっていることや疑問



グループみんなの
願い



探究課題＝「解決したい問い」です。
「どうしたら～?」「どうすれば～?」
というような疑問文にしよう!

グループの探究課題

探究課題は、「～について、～のこと」で終わると単なる「調べ学習」になってしまいます。また、「インターネットで調べたら、すぐに答えが分かる」＝「浅い問い」。「直接誰かに聞かなければ分からない」「自分で行動を起こさないと分からない」＝「深い問い」です!「深い問い」を目指そう!

また,出来上がった探究課題が,下の条件をクリアしているか確認してみましょう!

- ☐自分たちが本当に「知りたい」「取り組みたい」と思うものになっていますか?
- ☐自分たちが取り組もうとしていることは、「誰か」「何か」のために役立ちますか?



学習日: R 年 月 日 [自然 × 川]グループ 氏名

大和をよりよい町にするために グループの探究計画を立てよう！

(例)

STEP1 グループの探究課題を書こう！

大和町の自然の力をエネルギーとして活用する方法を探る！

STEP2 探究課題を設定した理由を書こう！

(この探究課題が気になったきっかけや理由。この探究課題がよりよいまちづくりにつながると考えた理由。)

エネルギー問題は今の社会にとって必要とされていて、大和町の川の力をエネルギーとして活用できれば、よりよい町になると考えたからです。

STEP3 課題を解決するために必要な情報について考えよう！

(どんなことを調べたら良いかを考える。)

- ・現在の和町の電力はどこから来ているかについて
- ・大和町の自然資源で発電に活用できるものがあるかについて
- ・水力発電の仕組みや設備の建設方法について

STEP4 情報収集の方法について考えよう！

(どうやったら、何を使ったら調べたいことの答えが見つかるかを考える。)

- ・小学校6年生の理科の教科書、中学校3年生の科学の教科書
- ・インターネット
- ・大和町役場(インタビュー)
- ・電力会社(インタビュー)

STEP5 まとめ方を考えよう！

(自分たちの考えや思いを伝えやすいまとめ方を考えよう！)

- ・壁新聞、個人新聞
- ・ポスター
- ・スライド、動画 等

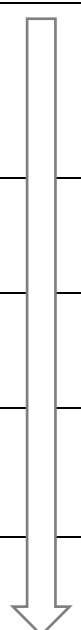
自分たちの力で無理なく取り組めるもので OK！

STEP6 最終ゴールをイメージしよう！

(自分たちの探究課題についてまとめたら、それをどうしたいか。)

資料にまとめたことを、町役場の方に見ていただきたい。

STEP7 探究計画を立てよう！

	日時	全体の探究スケジュール	グループの探究スケジュール	メモ
課題設定	9/16 ⑤	オリエンテーション(1) ・国恩記について知る	 課題の設定からまとめ・表現まで、いつまでに何をしたら良いかという計画を自分たちで考えて見通しを持って活動しましょう！	
	9/30 ⑤⑥	オリエンテーション(2) ・講演会「大和町について学ぶ」		
	10/5 ⑤⑥	グループ分けに向けて ・個人の考えの記入 ・グループ分け		
	10/13 ⑤⑥	探究課題設定 「大和町をよりよい町にするために、探究課題を決めよう！」		
情報の収集	10/21 ⑤	情報の収集 ・図書室、インターネット	例)大和町の電力について、ネットを使って調べられる情報を集める。	
	10/21 ⑥	情報の収集 ・図書室、インターネット	例)ネットで調べられなかった情報を、誰に聞けば良いか調べる。	
	10/28 ⑤	情報の収集 ・インタビュー（電話、FAX、メール）	例)役場への質問項目をタブレット端末で作り、先生に点検してもらう。	
	10/28 ⑥	情報の収集 ・インタビュー（電話、FAX、メール）	例)準備ができたなら、役場への送り方について先生と相談する。	
整理・分析	11/10 ⑤⑥	整理・分析 ・集めた情報についての話し合い ・他グループとの情報交換	 例を参考にしながら、自分たちの探究の流れを計画していきましょう！	
まとめ・表現	11/17 ⑤⑥	まとめ・表現 ・資料作成		
	12/1 ⑤⑥	まとめ・表現 ・資料作成		
	12/8 ⑤⑥	まとめ・表現 ・学級発表会		
	12/15 ⑤	振り返り ・今回の学習について個人で振り返る		

学習日: R 年 月 日 [×]グループ 氏名

大和をよりよい町にするために **グループの探究計画を立てよう！**

STEP1 グループの探究課題を書こう！

STEP2 探究課題を設定した理由を書こう！

(この探究課題が気になったきっかけや理由。この探究課題がよりよいまちづくりにつながると考えた理由。)

STEP3 課題を解決するために必要な情報について考えよう！

(どんなことを調べたら良いかを考える。)

STEP4 情報収集の方法について考えよう！

(どうやったら、何を使ったら調べたいことの答えが見つかるかを考える。)

STEP5 まとめ方を考えよう！

(自分たちが詳しく調べたことや考えたことを分かりやすくまとめる方法を考えよう！)

STEP6 最終ゴールをイメージしよう！

(自分たちの探究課題についてまとめたら、それをどうしたいか。)

STEP7 探究計画を立てよう！

	日時	全体の探究スケジュール	グループの探究スケジュール	メモ
課題設定	9/16 ⑤	オリエンテーション(1) ・国恩記について知る	 課題の設定からまとめ・表現まで、いつまでに何をしたら良いかという計画を自分たちで考えて見通しを持って活動しましょう！	
	9/30 ⑤⑥	オリエンテーション(2) ・講演会「大和町について学ぶ」		
	10/5 ⑤⑥	グループ分けに向けて ・個人の考えの記入 ・グループ分け		
	10/13 ⑤⑥	探究課題設定 「大和町をよりよい町にするために、探究課題を決めよう！」		
情報の収集	10/21 ⑤	情報の収集 ・図書室、インターネット		
	10/21 ⑥	情報の収集 ・図書室、インターネット		
	10/28 ⑤	情報の収集 ・インタビュー（電話、FAX、メール）		
	10/28 ⑥	情報の収集 ・インタビュー（電話、FAX、メール）		
整理・分析	11/10 ⑤⑥	整理・分析 ・集めた情報についての話し合い ・他グループとの情報交換		
まとめ・表現	11/17 ⑤⑥	まとめ・表現 ・資料作成		
	12/1 ⑤⑥	まとめ・表現 ・資料作成		
	12/8 ⑤⑥	まとめ・表現 ・学級発表会		
	12/15 ⑤	振り返り ・今回の学習について個人で振り返る		

振り返りカード

1年 組 番 氏名()

4・5	月 日	段 階			
	／	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
まとめ (学んだことや, 進み具合など を書こう)					
次の時間にやること (次にやること, やるとよいと思 うことを書こう)					
ふり返し (今日考えたこと, 次に向けて 考えていることなどを書こう)					
6・7	月 日	段 階			
	／	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
まとめ (学んだことや, 進み具合など を書こう)					
次の時間にやること (次にやること, やるとよいと思 うことを書こう)					
ふり返し (今日考えたこと, 次に向けて 考えていることなどを書こう)					

高等学校総合的な探究の時間（ひがまつプロジェクト）①指導計画

1 単 元 名 自己理解を深めよう

2 単元の目標

自ら疑問や問いを見だし、課題を解決することによって得られた知識や経験が、課題意識を持って探究してきたことの成果であると気付く。さらに、探究活動に、主体的に取り組もうとしている自分の良さに気付くとともに、他者の取り組みに関心を持ち、その活動を尊重しようとする態度を養う。

3 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①探究のプロセスを経ることが課題の解決に有効であることや他者との関わりから多様な考えがあることを理解している。 ②図書資料や ICT 機器などを活用し、探究活動を、目的や対象に応じて適切に実施している。 ③自分が疑問や問いを見だし、課題を解決することによって得られた事柄に関する理解が、自らの課題意識の中で探究してきたことの成果であることに気付いている。	①自らの興味・関心のある事柄に対して、疑問や問いを見だし、探究すべき課題を設定し、それを探究活動計画書に記載している。 ②図書室の本や ICT 機器を活用したり、観察や実験、体験したりすることから探究課題の解決に向け情報を収集し、収集した情報を適切な方法で蓄積している。 ③収集した情報を表やグラフにまとめたり、図に表したりすることによって整理し、それを比較・分類・関連付けしながら、分析できている。 ④相手や目的に応じて分かりやすくポスターにまとめ、表現することができている。	①自分の興味・関心のある事柄の中から設定した課題の解決に向け、その活動に取り組もうとしている自分の良さに気付くとともに、同じく活動しようとしている他者の活動を尊重しようとしている。 ②自らが設定した課題の探究活動に、見通しを持ち計画的に取り組むとともに、他者の取組に関心を持っている。 ③探究を通して、自己の在り方・生き方を考えるとともに、身につけた探究の方法をこれからの人生で活用しようとしている。

(2) 単元の全体計画 (28 時間扱い 本時 13・14/28)

段階	時	小単元名	学習活動	評価規準			評価方法
				知	思	態	
課題の設定	1 ・ 2	①探究したい課題を設定しよう。(8時間)	・「ひがまつプロジェクト(総合的な探究の時間)」の学習内容について知る。 ・教師が作成した成果物・発表の例を視聴することによって、どのような成果物を作成し、発表を行うことになるか見通しを持つ。 ・ウェビングマップなどの思考ツール(ワークシート)を使って、探究課題のテーマを決定する。	①	①		ワークシート、振り返りシート
	3 ・ 4		・前時に引き続き、探究課題のテーマを決定する。 ・課題解決のテーマについて、どのように探究活動を行うか、探究活動計画書にまとめるとともに、活動に見通しを持つ。		①		探究活動計画書、ワークシート、振り返りシート
	5 ・ 6		・前時に引き続き、課題解決のテーマについて、どのように探究活動を行うか、探究活動計画書にまとめる。 ・HRで探究活動計画書を発表する準備・練習をする。		①		探究活動計画書、ワークシート、振り返りシート
	7 ・ 8		・HRで探究活動計画書の発表をする。 ・各自の発表について、探究するテーマや手法についての意見や感想を用紙に記入する。 ・自分の発表に関する意見・感想を確認し、今後の探究活動の方向性について修正する。		①	①	観察、探究活動計画書、意見・感想記入用紙、振り返りシート
情報の収集	9	②課題解決に向け、情報を収集しよう。(6時間)	・探究課題解決のための情報の収集のためPC室のパソコンや生徒用タブレット端末、各自のICT端末、図書資料などを活用したり、または、観察、実験したりすることを知る。 ・PC室のパソコンや生徒用タブレット端末などの使用するためのルールを知る。 ・他人の文章や写真などを使用する場合は、著作権や肖像権など配慮しなければならないことがあることを理解する。	②			ワークシート、振り返りシート
	10 ・ 11 ・ 12		・PC室の使用、タブレット端末の活用、各自のICT端末、図書館などを利用し、情報を収集する。 ・必要に応じて、観察・実験等を実施し、情報を収集する。 ・写真や文書の保存は、クラウド利用する。 ・メモなどの紙媒体で保存する情報は、総合的な学習の時間用のリングファイルに保存する。 ・次の時間はHR内でグループを組み、グループ内で収集した情報や情報の収集の方法について良かったことや困っていることについて知る。	②	②		振り返りシート、ワークシート

	13 ・ 14 本時		・HR内でグループを組み、グループ内で収集した情報や情報の収集の方法について良かったことや困っていることについて役割を決めて受け答えすることによって情報を共有する。 ・グループ内で共有した情報を踏まえて、情報の収集を再開する。 ・インターネット（PC室のPC、生徒用タブレット端末、各自のICT端末）や書籍（図書館、個人のもの）などを利用し、情報を収集する。 ・必要に応じて、観察・実験等を実施し、情報を収集する。 ・写真や文書の保存は、クラウドを利用する。 ・メモなどは総合的な学習の時間用のリングファイルに保存する。	②	②		振り返りシート，ワークシート
整理・分析	15 ・ 16	③収集した情報を比較したり，分類したりして，どのようなことが検証できるのか，考えよう。（4時間）	・情報を分析するに当たり，思考ツールを利用したり，図やグラフにしたりする。 ・収集した情報の比較，分類，関連付けなどを行い，自分なりに課題解決における結論を導く。	②	③		ワークシート，振り返りシート
	17 ・ 18		・情報を分析するにあたり，思考ツールを利用したり，図やグラフにしたりする。 ・収集した情報の比較，分類，関連付けなどを行い，自分なりに課題解決における結論を導く。	②	③		ワークシート，振り返りシート
まとめ・表現	19 ・ 20	④学習の成果をまとめ，各HR内で発表したり，各HR教室にポスターを掲示したりすることで発表しよう。（8時間）	・課題解決の成果をどのような項目ごとにまとめるのか，教師の作成した例などを参考にしながら，ポスターを作成する。 ・各HR教室で発表する準備・練習をする。		④		ポスター，振り返りシート
	21 ・ 22		・各HR教室で作成したポスターを使って，探究した内容について発表をする。 ・自分の発表に関する意見・感想を確認する。 ・自分の発表に関する意見・感想を確認し，必要があれば手直しをする。	③	④	②	ポスター，ワークシート，振り返りシート
	23 ・ 24		・前時に引き続き，ポスターの手直しを行う。 ・模造紙にポスターを貼付し，次時に各教室で掲示して発表できるように準備する。		④		ポスター，振り返りシート
	25 ・ 26		・各HR教室にポスターを貼付した模造紙を張り出す。 ・各教室を巡り，各HR教室にポスターが貼られているのを見学し，自分が興味を引かれた発表や内容が良かった発表についてワークシートに理由などを書き込み，提出する。	③	④	②	ワークシート，振り返りシート
振り返り	27 ・ 28	⑤今年度の活動について振り返り，次年度の活動について見通しを持とう。（2時間）	・これまでの活動を振り返るとともに，自分が探究を通して身に付けたこと，高まったこと，深まったこと，伸びたことを記述するとともに，学習活動を通して得た新たな問いや考えなどをワークシートにまとめる。 ・次年度の活動について，教師からの説明などから見通しを持つ。			③	ワークシート，振り返りシート

ひがまっプロジェクト① 13・14 時間目／28 時間の授業展開について（11 月 4 日）

○指導に当たって

本時では、前時までに収集した情報や情報の収集・蓄積の方法について、グループ内で共有することにより、生徒に多様な考えや異なった考え、情報収集・蓄積の方法を理解させるとともに、それを踏まえた情報の収集・蓄積に引き続き取り組ませることを指導の内容とする。情報の収集の過程において、協働的な学びの機会を設定し、多様な情報や異なった考えに触れさせることを目的に本時の前半の学習内容を設定している。

（1）本時の目標

- ・グループ内での情報交換を通して、各々が収集した情報や情報の収集・蓄積方法の多様性を認め、それぞれに違いがあり、個別の良さをもっていることを理解する。（知識・技能）
- ・探究課題の解決に向け情報を収集したり、収集した情報を適切な方法で蓄積したりできるようにする。（思考・判断・表現）

（2）本時の評価規準

- ・グループ内での情報交換を通して、各々が収集した情報や情報の収集・蓄積方法の多様性を認め、それぞれに違いがあり、個別の良さをもっていることを理解している。（知識・技能）
- ・探究課題の解決に向け情報を収集したり、収集した情報を適切な方法で蓄積したりしている。（思考・判断・表現）

（3）指導過程（13・14 時間目／全 28 時間）

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5 分)	1 本時の目標及び学習活動を確認する。(10 分) (1) 本時の目標を確認する。	■各教室で、担任と副担任、学年主任が指導を行う。	
	・グループ内で情報や情報の収集・蓄積の方法を共有する。 ・情報の収集に引き続き取り組む。 (2) 学習活動を確認する。 ①グループを組み、そのグループ内で集めた情報や情報の収集・蓄積の方法について共有する。 ②情報の収集・蓄積の学習活動に取り組む。	◎グループ内で集めた情報や情報の収集・蓄積の方法について共有するため、3 人ほどのグループを作ること確認させる。 ◎グループ活動の後、情報の収集・蓄積することを確認させる。	
展開 (75 分)	2 情報の収集 (1) 情報を共有する。 ①探究のテーマに関して収集した情報やその情報の収集や蓄積の方法についてワークシートにまとめる。 ②同じ教室のメンバーで 3 人ほどのグループを作り、グループでワークシートにのっとり一人一人が探究課題の解決に向け、収集した情報を発表し合う。	◎探究のテーマに関して収集した情報や情報の収集や蓄積の方法について、まとめやすいようにワークシートを使用させまとめさせる。 ◎生徒各自の情報の収集が本時の後半や次時まで円滑に進むようにするために、収集した情報や情報の収集で良かったことや困っていること、情報の収集・蓄積方法に関することについて、グループ内で情報を共有し、困っていることに関しては意見の交換を促す。	ワークシート（知識・技能）

	③順番で役割を交代し、それぞれの役割を全員で経験する。 (2) 情報を収集する。 ①前時に引き続いて情報の収集を行う。情報の収集は各自の探究テーマについて行う。ワークシートを引き続き使用する。 ②情報の収集が上手に進まない場合は、級友や教師に相談する。	◎グループでの活動が進んでいない場合は、教師が順番や活動内容を確認するなど言葉掛けを行う。 ◎情報の収集を進めるために、生徒用タブレット端末や各自の ICT 端末などの ICT 機器を使用したり、図書資料を利用させたりする。また、必要に応じて観察や実験、インタビューなどを行わせる。 ◎「調べ学習」にならないためにも、できるだけ、2次情報だけの収集にならないようにさせる。 ◎生徒の情報収集に対する視点は限定的であると考えられるので、多様な視点に立って情報の収集ができるように教師は各生徒の活動状況に応じて、言葉掛けを行い、必要に応じ助言する。	ワークシート（思考・判断・表現）
終末 (10分)	3 本時のまとめ (1) 活動内容の確認 本時の活動で分かったことを、各自確認する。 (2) 次時の見通し。 次の時間以降の学習活動の予定について確認する。 (3) 本時の振り返り。 振り返りシートに本時を通して分かったことや考えたこと、次の時間に向けて考えたことを記入する。	◎各自、記録した媒体から、本時で分かったことを確認させる。 ◎今後の自分の探究活動について自分で考えさせるため、リングファイルの探究活動計画書の全体スケジュールに自分の探究活動を照らして、今後のスケジュールを考えさせる。 ◎今日の授業の学びの手応えを生徒自身に気付かせるため、振り返りシートに各自記入させる。	ワークシート, 振り返りシート

○情報の収集 発表用ワークシート

学籍番号

氏名

●ワークシートについて

- 1 (1)～(5)の項目についてまとめる。
- 2 グループ内で(1)～(5)の項目についてお互いに発表し合い、ペアを組んだ人と情報を交換する。
- 3 ペアを組んだ人の発表を聞いて、自分のこれからの探究活動に生かせそうなことを書き出す。

(1) 探究活動のテーマ

(2) 情報の収集の方法

(3) 情報の収集で新たに知ったこと

(4) 情報の収集で困ったこと

(5) これから調べようと思っていること

・発表を聞いて、自分のこれからの情報の収集などの探究活動に生かせそうなことを書き出してみよう！！

令和4年度 【 ひがまつプロジェクト 】

No.

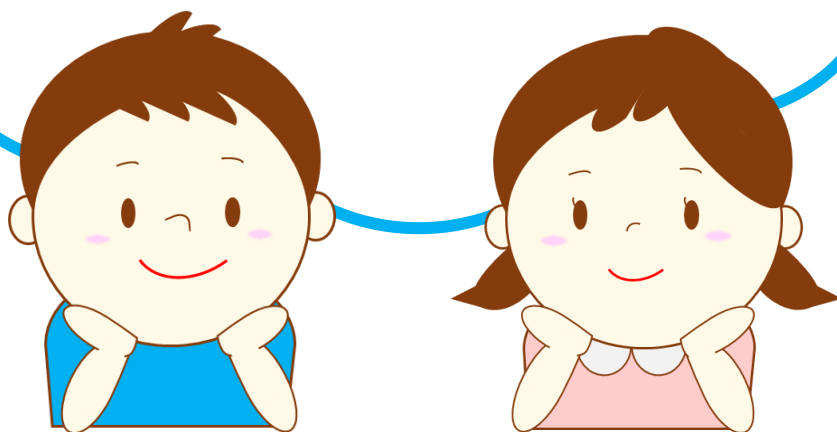
振り返りシート

年次 氏名

月	日	曜日	校時	授業内容	理解度 (どちらかに○を…)		学びのてごたえ (分かったこと, できるようになったこと, その理由などを記入しよう)	検印
					グッド	イマイチ		
				・ ・				
				・ ・				
				・ ・				
				・ ・				
				・ ・				
				・ ・				
				・ ・				
				・ ・				

かだい せってい 課題の設定

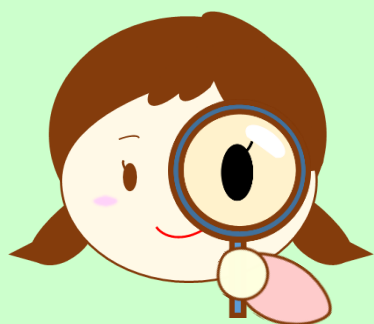
ふしぎに思うこと 見たこと
もっと知りたいこと 聞いたこと
やってみたいこと 体けんしたこと
新しく知ったこと など



かいけつ
自分で解決してみたい、
かだい せってい
みんなで考えてみたい課題を設定します。

じょうほう しゅうしゅう 情報の収集

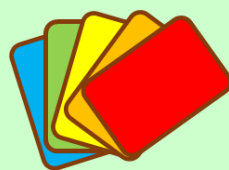
<集め方>



アンケート インタビュー
おたより・チラシ 見学
かんさつ・実けん 体けん
本 インターネット など

<しまい方>

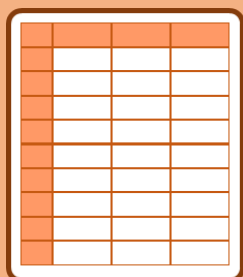
集めたじゅんばんで
しゅるいごとに



みんなで見られるように など

かだい かいけつ じょうほう
課題を解決するための情報を集め、
後で使いやすいように整理します。

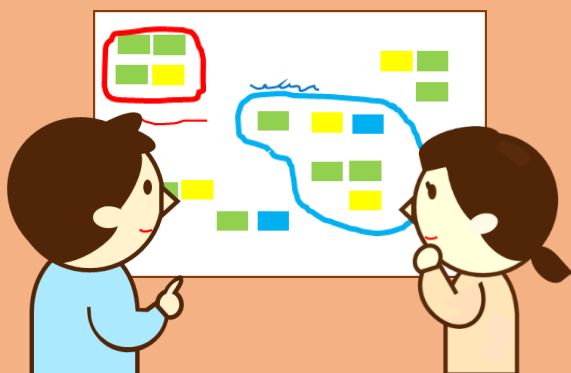
せいり ぶんせき 整理・分析



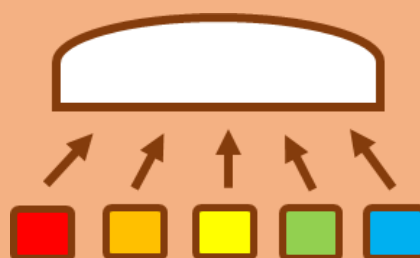
表に整理する



地図に整理する



図を使って仲間分けしたり比べたり、
なかま
かんれん 関連づけたりする



など

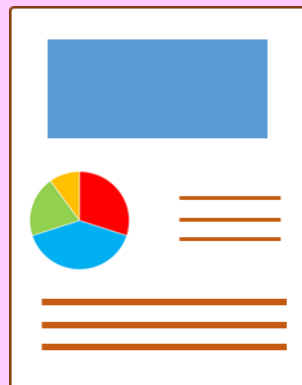
整理した結果から、なぜそうなったか、
けっか
そこから何が言えるのかを考えます。

ひょうげん まとめ・表現



発表会・ほうこくかい報告会

レポートや作文



もの・表現づくり



スライドやムービー



など

相手に伝えることで、考えをはっきり
させたい、新たなかだい課題をもっといします。

A 小学校 ～問題解決的な活動を発展的に繰り返す～



一年を通して探究活動が複数サイクル行われるように計画することで、問題解決的な活動が発展的に繰り返されるようになっています。

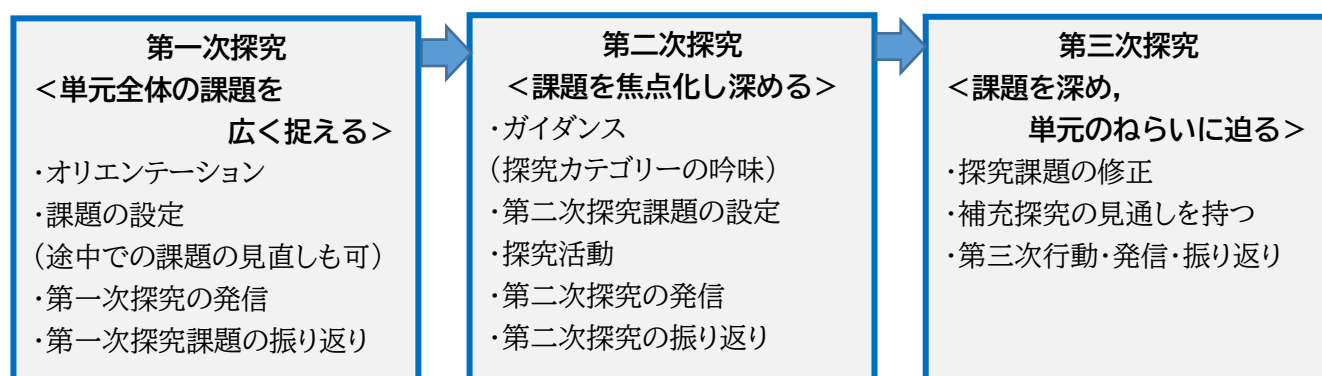


年間指導計画

年間指導計画は、児童が探究の過程を踏む中で育てたい資質・能力、設定したい体験活動、外部団体との関わり等、一年を通した児童の学習の方向性が具体的に記されています。

さらに、第一次探究として、探究の過程をたどりながら設定されたテーマについての理解を深める。第二次探究として、第一次探究で学んだ内容を基に新たな課題を設定し探究する。第三次探究として、第二次探究での発信の振り返りを基に、修正、補充、発展させたものをさらに探究していくというように、探究の過程を数回行う計画となっています。このことにより、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていきます。

A 小学校の探究的な学習の大まかな流れ



課題の設定

A 小学校の探究的な学習では、子供が問いを立てるまでの過程を大切にし、時間を掛けています。具体的には、課題設定の場面で体験活動や講師の方の講話を取り入れ、そこで感じた思いを大切にさせながら探究活動をスタートさせるなど、児童がテーマを「自分のこと」と思えるような工夫がなされています。

振り返り

第一次探究と第二次探究との間をつなぐ際の振り返りの時間も大切にしています。それにより、児童が解決したい課題をより具体的に捉え、思いを強くさせるなどの工夫がなされています。一単位時間の最後にも振り返りを行い、その振り返りを基に児童の学習の進み具合や考え等を見取り、その後の計画や指導を修正、改善のために生かしています。

B 小学校 ～校内研究により教員の共通理解を図っている～



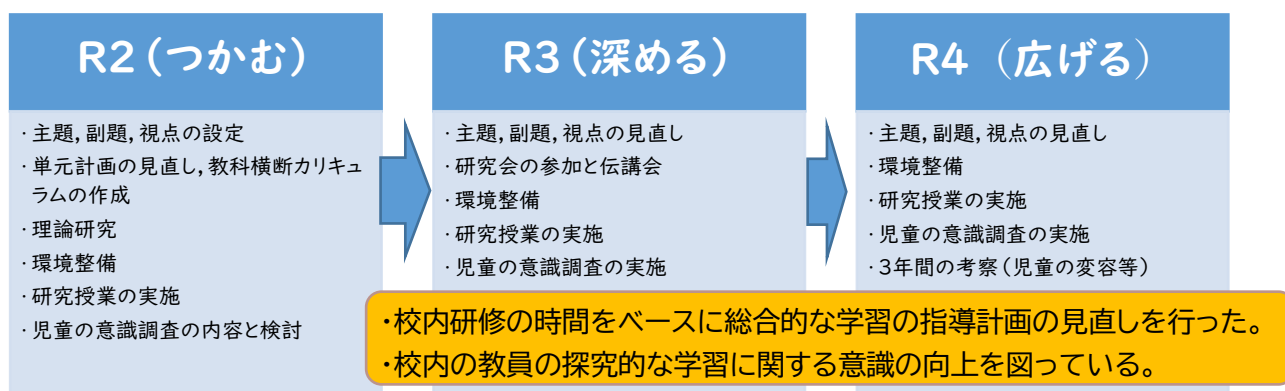
校内研究の時間を使いながら教員の探究的な学習についての認識を高め、協働で授業づくりを行った上で、研究授業を実施し、教員の共通理解を図っています。



校内研究に位置付け

3年に渡って校内研究で探究的な学習に取り組んできました。今年度は3/3年次に当たります。これまで、学級担任や研究主任を中心としながらカリキュラムを整備するとともに、校内研究の時間を使いながら教員の探究的な学習についての認識の共通理解を図っています。

B 小学校の研究計画（3カ年計画）



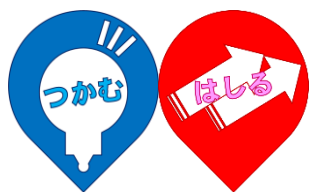
研究授業

研究授業は各学期に1回学年部で実施していて、協働による授業づくりを基に授業内容を検討しています。事前検討会は、授業者が立案した指導案素案を基に、全教員がそれぞれの授業構想を立案しています。そして、学習計画と探究のプロセスを対応させたり、疑問点を出し合ったりしながら擦り合わせを行います。最終的には授業研究部で内容を精査した後、学習指導案を全体へ提案する流れとなっています。こうした協働による授業づくりの課程を踏んだことにより、教員がだんだんと「子供たちがわくわく感を持てるように」という視点を持つようになり、楽しみながら授業づくりをする雰囲気が生まれています。

共通理解

研究1年目の令和2年度は、探究的な学習について教員の理解にばらつきがありました。職員間の共通理解を図ることを重点的に取り組みました。その結果、教員間の共通理解が図られ、探究的な学習の指導が充実していきました。更に、年間指導計画や単元計画、本時の指導など一つ一つの活動の中で、具体的な指導のイメージを持ちながら、目指す子供の姿の実現に向けて日々指導に当たっています。

C 中学校 ～教員が伴走者の役割を果たしている例～



教員が生徒の「伴走者」としての役割を果たせるよう、職員会議などで共通理解を図り、指導に当たっています。



チームで推進する探究学習

全学年の生徒が縦割りゼミ形式のグループに分かれ、年間を通して一つのテーマで個人探究に取り組んでいます。一人の教員が担当する生徒は11～12名で、教員は生徒の探究の進み具合を見取りながら、共に考えたり助言をしたりする「伴走者」の役割を果たしています。C中学校では、年度初めの職員会議で探究的な学習や校内の取組について共通理解をすることから始めています。そして毎月、探究学習担当者、研究部、各学年の総合担当者（学年主任+1人）で打合せを持ち、職員会議で提案、検討し、チームで探究学習を計画、推進しています。

教育委員会は、2020年度から一般社団法人と連携して「探究学習支援事業」を立ち上げました。総合的な学習の時間には「探究学習コーディネーター」が毎回来校し、各教室を回りながら、活動を支援していました。生徒にとって、探究学習の相談に乗ってくれる心強い存在となっているようです。インタビューやアンケートを実施したい時は、地域の方々や企業との連絡調整も行い、忙しい先生方の強い味方にもなっていました。

授業風景

一人の生徒が、「災害時に水が手に入らなかったときを想定して、どうすれば飲み水が確保できるか」について実験を行っていました。理科教員が伴走しながら、生徒の実験を補助していました。ろ過装置も生徒が考案し、作ったもので、一度目はうまくいかず、今回は修正した装置での再挑戦でした。新しいろ過装置を通した水を煮沸し、COD検査をしたのですが、得られた結果は生徒が予想したものとは異なっていたようでした。この後も生徒の粘り強い探究は続いていきます。

生徒たちの協働の姿

教室や廊下などで生徒同士が互いの探究について相談し合う場面を何度も目にしました。後輩が先輩にアドバイスを求めたり、課題が似通っている何名かで集まってアンケートを作成したりしていました。別々の教室で活動していた生徒たちが、共通の目的のために集まり、自然と話合いの輪ができていました。



生徒が考案したろ過装置

D 中学校 ～学年進行で生徒の探究する力を育成している



学年進行で探究する力を育成できるように、指導計画を作成するとともに、地域学校協働本部を活用し、生徒の総合的な学習の時間の充実を図っています。



学年進行で探究する力を育成する取組

1 年生は、総合的な学習の時間で「地域を知る」「職業について知る」を題材として学習に取り組んでいます。そこでは、生徒が探究的な学習のプロセスを踏んで課題の解決に迫れるよう、学習の過程を、課題の設定、情報の収集と整理・分析、まとめ・表現と3つの過程に分け、特に課題設定や見直しの時間を充実させています。その過程の中では、思考ツールを活用し課題を立てたり、グループで発表の機会を設けたりするなど、探究の方法が身に付くよう学習活動が計画されています。また、総合的な学習の時間の学習活動を通して、生徒同士の関わりを構築させることやコミュニケーションスキルを高めさせることも勘案して学習活動が実施されています。そして、2 年生・3 年生と学年が進行するにつれて学習の質を高めたり、深めたりする活動が実施される予定になっています。

D 中学校の「総合的な学習の時間」の目標

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性
1 学年	解決の手段を知り、試すようにする。	示された形式で調査、発表することができるようにする。	示された課題について、取り組もうとする態度を養う。
2 学年	解決に向け、学んだ知識や技能を生かすようにする。	自分の課題に応じて調査方法や発表内容を構成できるようにする。	示された課題から、自ら深化させたいものを見だし、解決しようとしている。
3 学年	学んだ知識・技能を、社会と関連付けて、理解できるようにする。	未知の状況において、課題を見だし、調査・分析をとおして解決方法をまとめることができるようにする。	課題解決をとおし、社会参画の意識をもとうとしている。

地域学校協働本部との連携

地域学校協働本部と連携することで総合的な学習の時間の充実を図っています。地域学校協働本部はD 中学校が所在するX 市では各学校区に設置されています。地域学校協働本部の「地域コーディネーター」が中心となり、学校のニーズや地域住民の思いを拾い集め、地域の実情に合った活動を企画したり、それに伴う活動につい

て支援をしたりしています。

1 年生の「地域を知る」の授業では、設定した課題について探究する過程で、市議会議員や教育委員を招いて質疑応答する活動を行ったり、命について学ぶ学習でゲストティーチャー等を活用したりする場合に地域学校協働本部が講師等との連絡・調整をしています。

E 高校 ～地元NPO法人と学校が連携している～

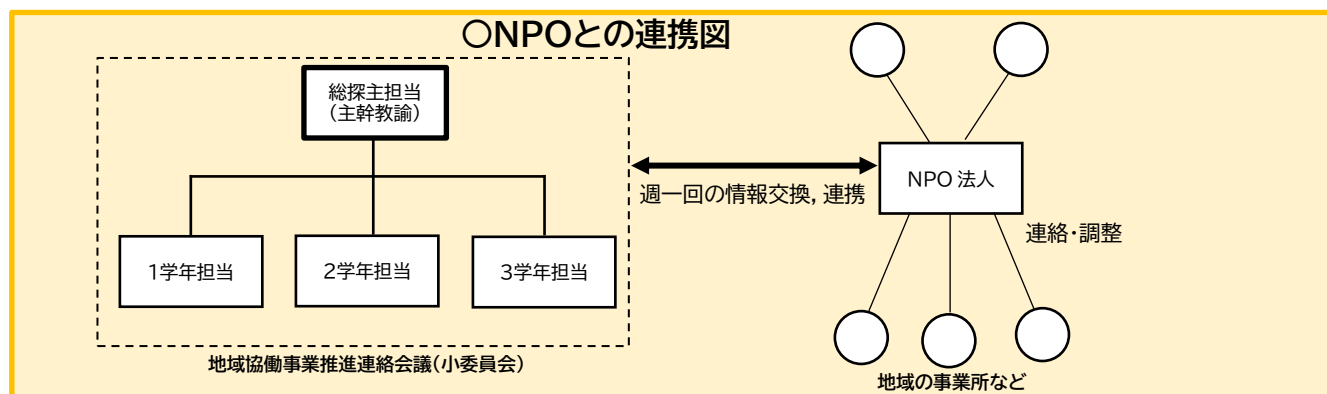


地域の資源を生かした総合的な探究の時間を進めているE高校では、地元NPO法人と連携するとともに、その実践のための校内体制を整えています。



地元NPO法人

地元NPOと学校が連携することにより、地域の事業所や行政機関、卒業生の学習活動への参画を円滑にしています。具体的な取組としては、総合的な探究の時間（以下「総探」）の担当者とNPOの担当者が週一回情報交換の機会を設定しています。情報交換の機会を設定することで、学校とNPO間での共通理解が深まり、生徒への指導に役立っています。情報交換にはそれぞれの学年の総探担当者も出席することから、学年間の情報共有も図られています。



年間指導計画

1年生は事業所訪問を実施し、地域の事業所や行政機関との交流の機会が設定されています。事業所訪問は、単なる職場体験ではなく、訪問した事業所から与えられた課題に対して生徒が解決策を考え、プレゼンを行い、課題に応えるという学習活動を行っています。

2年生は地域について学んだ1年生の学習の成果を基に、地域の魅力について新たに発見することを目標に学習活動を行っています。学習活動は興味・関心の似た生徒たちで作ったグループを基本として実施し、現地取材を行っています。現地取材は夏季休業中に学校所在の地域を中心に行っています。その後、

9月に中間発表、11月に最終報告を行います。

3年生は1,2年生での学習成果を活かし、個人で自分の興味・関心のあることをテーマに課題研究に取り組んでいます。なお、年間指導計画は毎年少しずつ更新しています。

教師の姿

教師が自分の興味・関心のあることに対して探究活動を行い、その成果を生徒に対して発表する機会も設けられています。探究活動に教師が「自分のこと」として取り組む姿を見せることで、生徒の取り組む探究活動の良い見本になっています。

F 高校 ～校内組織の整備, 地元の事業所と直接連携～



校内に総合的な探究の時間運営委員会を設置し、校内の推進体制を整えるとともに、運営委員会の担当が地元の OB・OGなどと連携しています。



探究と進路選択

F 高校の総合的な探究の時間（以下「総探」）は、1 年生はグループ探究、2 年生は個人探究、3 年生の進路選択につながっていくという特徴がありました。

1 年生では、地域にある事業所から出された課題の解決に向け、探究します。事業所訪問に行くことができるよう、生徒が総探に取り組みやすい校内体制も整っています。生徒は、中間発表、最終発表という過程を踏み、探究を深めていきます。

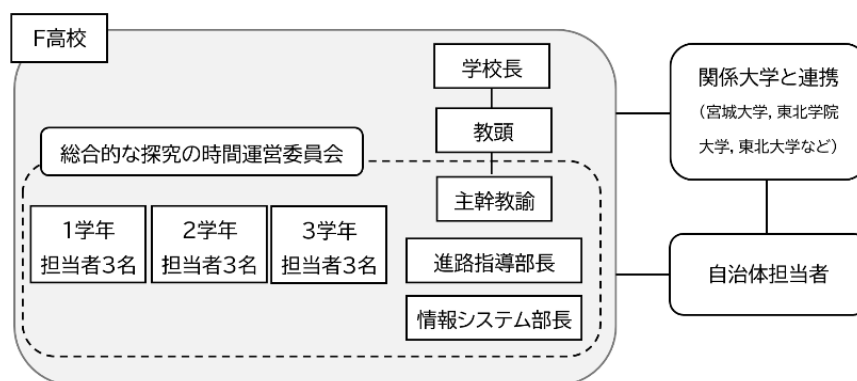
2 年生では、各自の興味・関心や将来やりたいことに基づき、個人で探究に取り組みます。課題の内容に応じて「文学・語学」「経済・経営」「医学・薬学」「国際」などの学問分野グループに分かれ、担当教員や地域の専門家に助言をもらいながら探究を進めていきます。2 年生の探究は行動範囲や情報収集の方法の幅が広がり、探究的な学びの質が高まってきます。2 年間の探究を通して見つけた自己の生き方・在り方が3 年生での進路選択へとつながっていきます。

総探委員会の活用

総探の本格実施に合わせ、校内組織の中に「総探委員会」が設置されています。この委員会に所属する教員が中心となって全体計画を立案し、その計画に基づいて各教員が実践しています。生徒の組織の中にも「総探進路委員会」が設置され、その委員の生徒が中間発表会で司会を務めるなど主体的に総探に取り組むための環境が整えられています。

卒業生の活用

F 高校では上記の学習活動を進めるに当たって、地元の卒業生とつながり、その協力のもと学習を進めています。この人材ネットワークの構築は、総探委員会の教員が積極的に行い、生徒のニーズに答えながら人選しています。卒業生は情報の収集に協力したり、中間発表会や最終発表会へ出席して発表に対し評価や助言をしたりするなど、連携体制が整っています。



F 高校 総合的な探究の時間 校内組織図